

奥州市放課後子どもプラン (第五次)

令和 2 年度～令和 6 年度

奥州市

I プランの策定にあたって	
1 プラン策定の背景	1
2 プランの性格・位置づけと対象	2
3 プランの期間	3
II 基本理念及び基本目標	
1 基本理念	3
2 基本目標	3
III 奥州市の現状と課題	
1 人口・一世帯あたりの人数・年少人口の推移	4
2 子ども・保護者の状況	5
3 放課後対策を推進する事業の実施状況	6
4 「奥州市放課後子どもプラン」の達成状況の検証	8
5 今後の課題	9
IV 計画推進のための取り組み	
1 子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所の充実に向けた取り組み	10
2 学校、家庭、地域と連携した事業展開に向けた取り組み	11
V 進行管理	
1 子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所の充実に向けた取り組み	12
2 学校、家庭、地域と連携した事業展開に向けた取り組み	13
奥州市放課後子どもプラン事業の概要	15
資料	
アンケート調査結果	
・放課後等の子どもの過ごし方に関するアンケート (市内各小学校児童の保護者対象)	17
・ほうかごのすごしかたアンケート (放課後対策事業利用の小学校3・4年生児童対象)	22
・放課後対策事業に関するアンケート (放課後児童クラブ及び放課後子ども教室利用児童の保護者対象)	26
・奥州市放課後子どもプラン見直しに係る調査 (相互間連携に関するアンケート) (放課後対策事業実施団体・市内小学校対象)	38

I プランの策定にあたって

1 プラン策定の背景

社会情勢の変化、少子・高齢化や情報化などの急激な進展に伴い、家族の形態や生活様式が大きく変わり、核家族化や地域のつながりが希薄になり、今日では子育てを助けてくれる人や相談できる人が身近にいないという状態が見られるようになりました。さらに、全国的に子どもが犠牲となる事件、事故が多数発生し、子ども達が安心して過ごせる居場所を確保することが重要な課題とされました。

このような状況の変化に対し、国においては文部科学省と厚生労働省が連携し、放課後の子ども達の安心・安全な居場所の確保を図るため、総合的に放課後対策を推進する「放課後子どもプラン」を平成19年度に創設しました。

そして、平成26年7月に、「放課後子ども総合プラン」（※1：以下「総合プラン」という。）を、さらに、平成30年9月には、総合プランの進捗状況や、児童福祉や教育分野における施策の動向（※2）も踏まえ、それまでの取り組みに加えて放課後児童クラブの待機児童の早期解消、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な実施（※3：以下「一体型」という。）の推進等によるすべての児童（小学校に就学している児童をいう。）の安全・安心な居場所の確保を図ること等を目的とした、「新・放課後子ども総合プラン」（以下「新プラン」という。）が策定されました。

この間、市では、平成20年10月に計画期間を平成22年度までとする「奥州市放課後子どもプラン」（以下「第一次プラン」という。）を策定実施し、これ以降、平成23年度から平成25年度までの「第二次プラン」、平成26年度から平成28年度までの「第三次プラン」、平成29年度から令和元年（平成31年）度までの「第四次プラン」を実施してきました。

この第五次プランでは、国の「新プラン」の方向性を参酌し、第四次プランについての実施結果の検証や課題の洗い出し等に基づく所要の改定を行い、新たに市の放課後対策を総合的に推進していきます。

※1 放課後子ども総合プラン… 共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、すべての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型（※3）を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めるため、国全体での数値目標を定めたもの。

※2 児童福祉や教育分野における施策の動向… 平成28年に児童福祉法（昭和22年法律第164号）が改正され、児童の福祉を保障するための原理として、「全ての児童は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、適切に養育されること」と規定された。児童の権利に関する条約第3条に示された、子どもの最善の利益をいかに実現していくか、児童福祉事業である放課後児童対策全般に強く求められている。また、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進するため、平成29年に社会教育法（昭和24年法律第207号）の一部改正が行われ、同年4月から施行された。地域学校協働活動の一環として、放課後等においても地域と学校が連携・協働し、子どもの地域における多様な体験や学びの機会の充実に努めることが重要であり、社会総掛かりでの教育の実現が求められている。

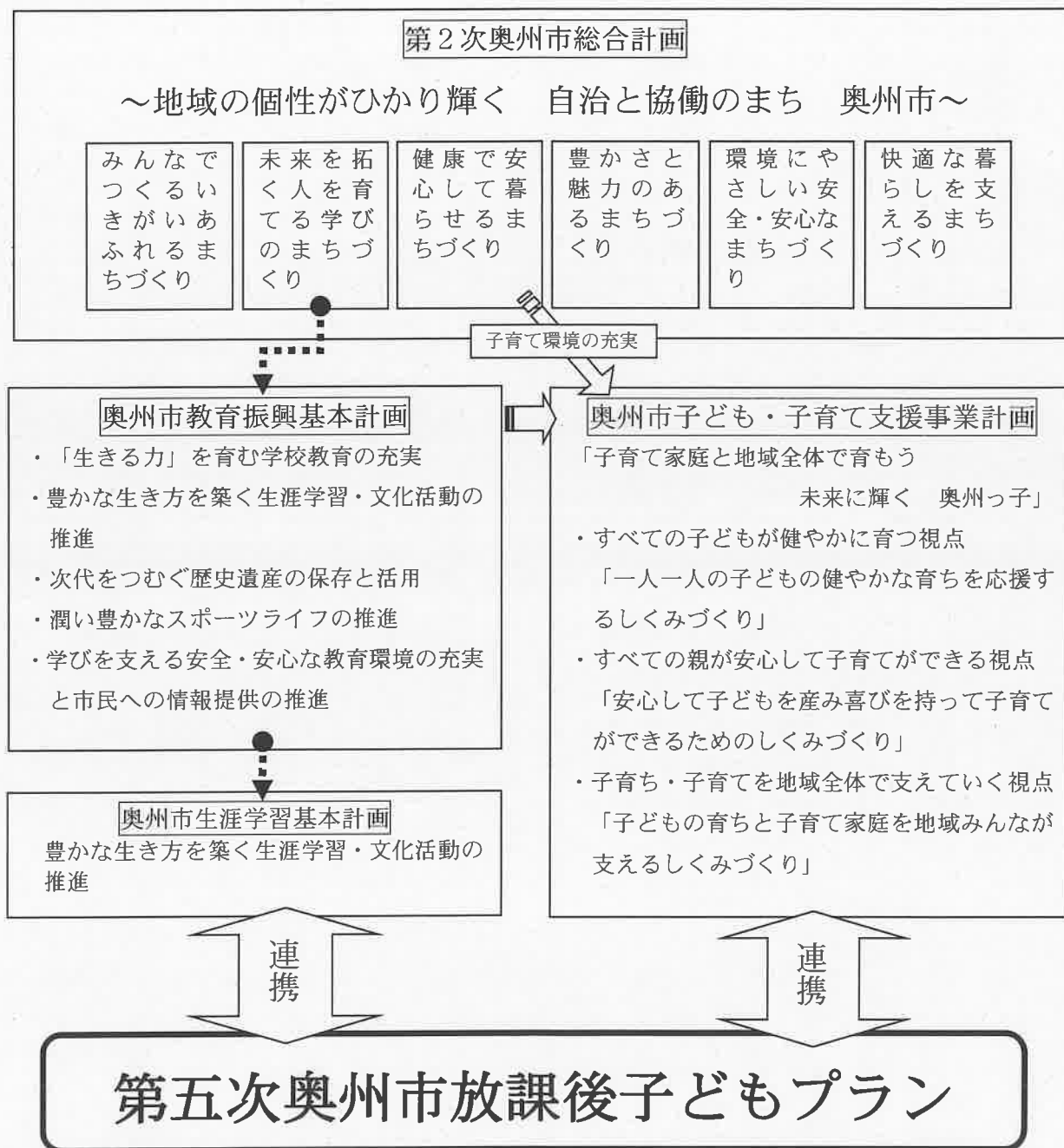
※3 一体型… 放課後児童クラブと放課後子ども教室が、同一の小学校内等の活動場所において実施しており、放課後子ども教室が実施する共通のプログラムに放課後児童クラブの児童が参加できるもの。

2 プランの性格・位置づけと対象

本プランは、国の「新プラン」の趣旨を参酌しつつ、「奥州市総合計画」を上位計画とし、関連する市の部門別計画と連携、整合性を図りながら市の放課後対策の方向性を定めるものです。

また、本プランの対象は、市内小学校のすべての児童です。

【総合計画等との関係図】



3 プランの期間

本プランは、第四次プランまでの「3年間」から変更し、国の「新プラン」、市の「子ども・子育て支援事業計画」と同様に期間を「5年間」とし、令和2年度から令和6年度まで実施します。

プランの期間中であっても、様々な環境や状況の変化により、見直しの必要性が生じた場合は、プランの見直しを適宜行っていくこととします。

Ⅱ 基本理念及び基本目標

次の基本理念及び2つの基本目標をもって、放課後対策を推進します。

1 基本理念

『子育て家庭と地域全体で育もう 未来に輝く 奥州っ子』
(奥州市子ども・子育て支援事業計画)

2 基本目標

- (1) 「子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所の充実」
- (2) 「学校、家庭、地域と連携した事業展開」



Ⅲ 奥州市の現状と課題

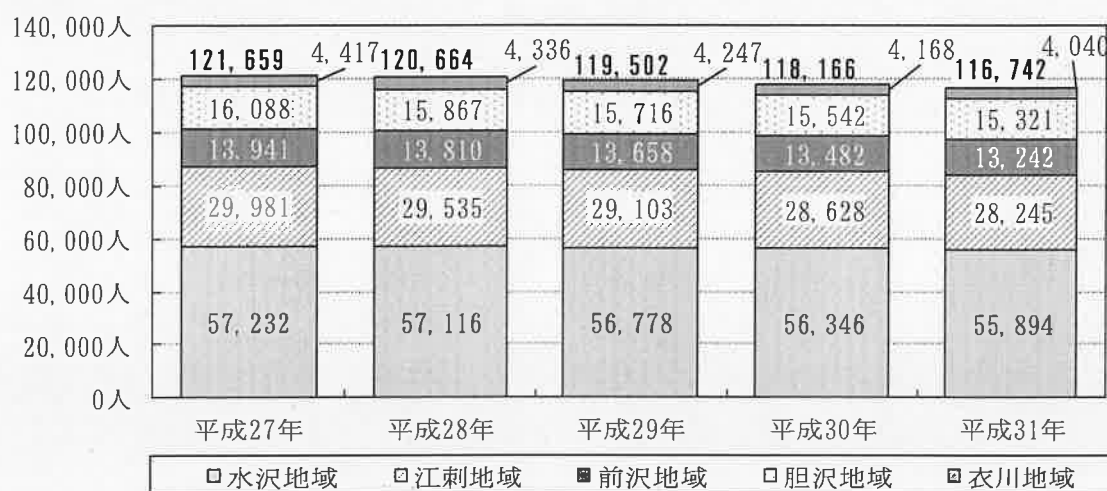
1 人口・一世帯当たりの人数・年少人口の推移

市の平成31年3月31日現在の総人口は116,742人で、過去5年間の人口の推移をみると、総人口は減少傾向となっております。

総人口が減少している一方で、世帯数が増加し、一世帯あたり人員が減少しており、核家族化が進行していることが考えられます。

過去5年間の年少人口の推移をみると、年々減少しており、0～2歳で約300人、3～5歳で約250人、6～11歳で約400人減少しております。

【市の総人口と地域別人口の推移】

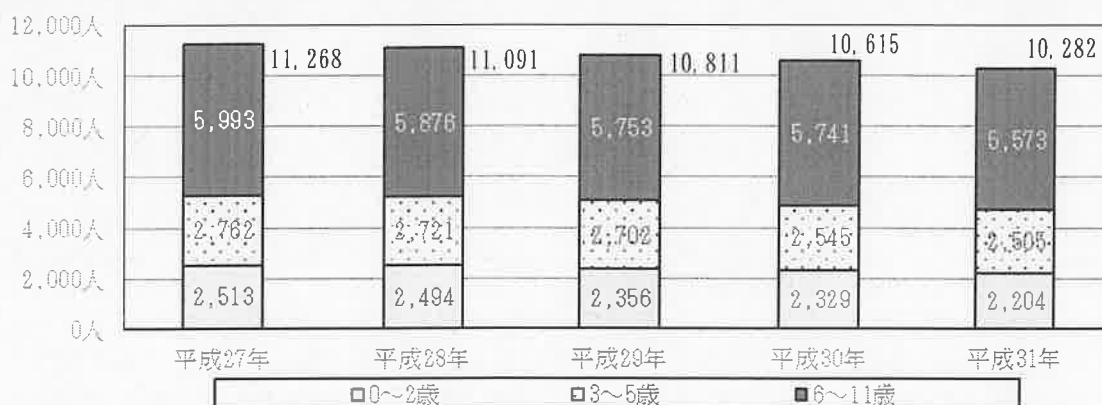


※ 地域とは、合併前の旧市町村である「水沢地域・江刺地域・前沢地域・胆沢地域・衣川地域」を表す。

【世帯の数と一世帯あたり人員の推移】

	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)
世帯数	44,285	44,638	44,875	45,017	45,323
一世帯あたりの人員	2.75	2.70	2.66	2.62	2.58

【市全体の年少人口の推移】



資料：奥州市子ども・子育て支援事業計画より（住民基本台帳（各年3月31日現在））

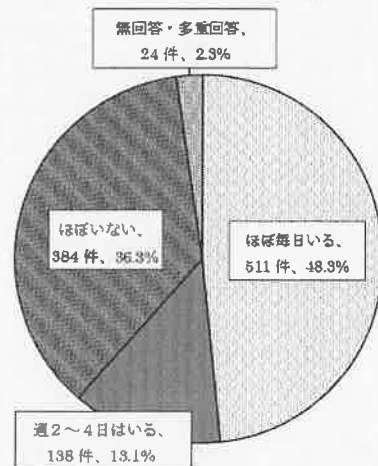
2 子ども・保護者の状況

放課後の子どもの過ごし方について、市内の子どもとその保護者がどのように考えているかの現状を把握するため、令和元年度に「放課後等の子どもの過ごし方に関するアンケート（小学校児童の保護者対象）」「ほうかごのすごしかたアンケート（放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を利用している小学校3・4年生児童対象）」を実施しました。

「放課後等の子どもの過ごし方に関するアンケート（小学校児童の保護者対象）」

（P17～）において、家庭で子どもを見守る人が「毎日」または「週2～4日以上はいる」との回答は61.4%ありました。これらの調査により、把握した子ども・保護者の放課後についての考え方については次のとおりです。

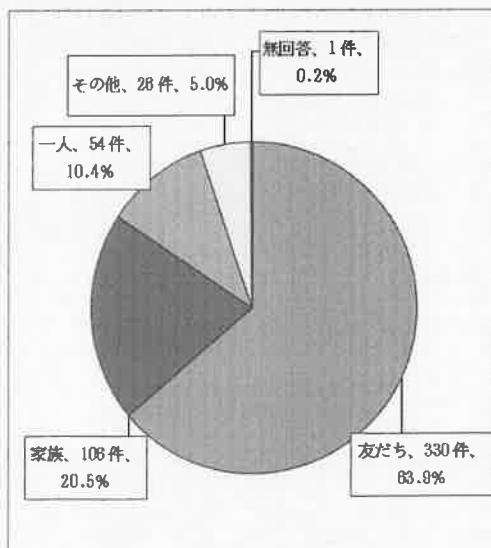
放課後、家庭に子どもを見守れる方はいますか



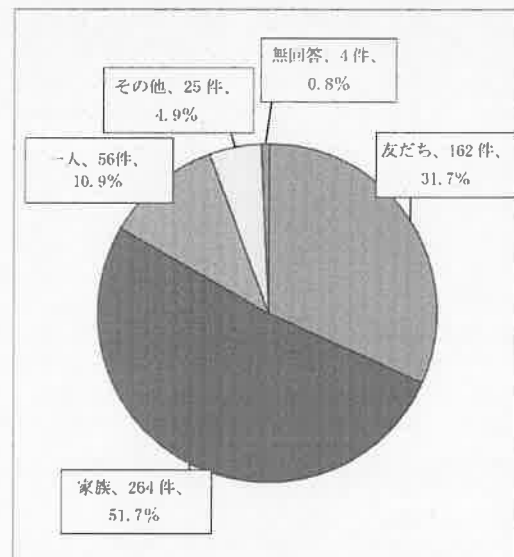
(1) 子どもの意識

放課後と休日の過ごし方についての調査「ほうかごのすごしかたアンケート（放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を利用している小学校3・4年生児童対象）」（P22～）によると、「誰と過ごしたいか」について、放課後は「友達」が63.9%、次いで「家族」が20.5%と多く、休日は「家族」が51.6%、次いで「友達」が31.7%と多い結果でした。また、「1人で過ごしたい」と答えた児童も放課後、休日ともに1割以上いることが分かりました。「何をして過ごしたいか」については、放課後、休日ともに「遊ぶ」が多くを占めており、遊びの内容として放課後は「スポーツ」、休日は「テレビ・ゲーム等をしたい」という回答が最も多い結果でした（P23、25）。

放課後、誰と過ごしたいか（複数回答を含む）



休日、誰と過ごしたいか（複数回答を含む）



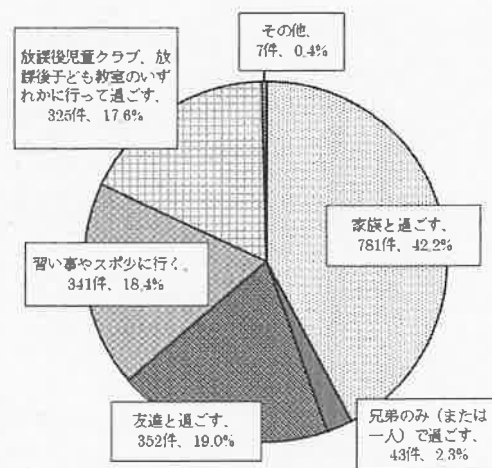
(2) 保護者の意識

「放課後等の子どもの過ごし方に関するアンケート（小学校児童の保護者対象）」（P 17～）によると、「望ましいと考える放課後の子どもの過ごし方」は、「家族と過ごす」が 42.2%、「友達と過ごす」が 19.0%、「放課後児童クラブ・放課後子ども教室に行く」が 17.6%であったのに対し、「一人または兄弟のみで過ごす」が 2.3%となっており、多くの保護者が子どもだけで家で過ごすことは望ましくないと考えているようでした。

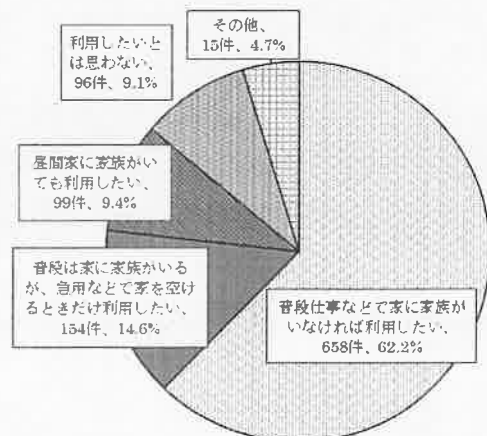
放課後児童クラブ、放課後子ども教室については、家族が家にいない場合に利用したい保護者が 76.8%おり、利用に当たっては「安全」、「学習」、「子ども同士の交流」といったことに期待している様子が伺えます（P 20）。

実際に、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を利用している児童の保護者を対象とした「放課後対策事業に関するアンケート」（P 26～）の設問 8（P 29～）からは、「子ども同士の交流、友達づくりの場」、「安全な居場所」、「地域文化に触れる場」、「異世代交流の場」、「生活習慣を覚える場」、「学びの場」としての重要度、満足度とも高く、両事業に対し肯定的であることがわかります。

放課後の子どもの過ごし方について、あなたが望ましいと思うもの。（2つまで選択）



子どもが放課後の居場所を利用することについて（1つ選択）



3 放課後対策を推進する事業の実施状況

現在、放課後対策として、放課後児童クラブと放課後子ども教室の2事業を中心に、次のとおり実施しています。（放課後児童クラブと放課後子ども教室の2事業を子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所を提供する事業として、以下、「居場所事業」とする。）

(1) 放課後児童健全育成事業【放課後児童クラブ】

放課後児童クラブは、就労等により昼間保護者のいない家庭の子どもに、生活の場として過ごすための場所と適切な遊びを提供する事業で、子ども達の安全対策、共働き家庭への支援といった役割を持っています。

平成 27 年度より、対象が小学 3 年生から小学 6 年生までに拡大されたことで、放課後児童クラブの登録希望者が増えて定員超過となってしまう、希望する児童全員が入れない場合がある（低学年を優先）ことや、放課後児童支援員の不足等が課題です。

【放課後児童クラブの状況（平成 29 年度から児童館、児童センターを事業移行）】

	H23	H26	H27	H28	H29	H30	R1 (H31)
実施箇所数	22	24	25	26	29	30	31
登録児童数	561	711	795	843	1, 284	1, 347	1, 398

【児童館、児童センターの状況（平成 29 年度から放課後児童クラブへ事業移行）】

	H23	H26	H27	H28
施設数	13	10	10	10
登録児童数	614	470	496	455

※ 市では、平成 28 年度まで 10 施設の「児童館、児童センター」があり、各施設を利用し、放課後児童クラブと同様の役割、利用実態の事業を展開しておりました。これらの施設を用いた事業は、平成 29 年度から放課後児童クラブへと移行し、事業を「放課後児童クラブ」に統一しました。
（施設名称も平成 29 年度より「児童館」「児童センター」から「放課後児童クラブ」と変更しました。）

(2) 放課後子ども教室推進事業【放課後子ども教室】

すべての児童を対象に、地域の協力のもと、子どもの体験の場づくりや、交流活動を実施し、子どもの健やかな成長と、事業を通じた地域力の向上が期待される事業です。

様々な体験を通して、多くの人と接することで、子ども達の心と体の成長を図る重要な場となっておりますが、地域により活動内容等のばらつきがあり、運営スタッフとして協力していただく地域の人材不足が課題です。

【放課後子ども教室の状況】

	H23	H26	H27	H28	H29	H30	R1 (H31)
教室数	13	14	14	15	14	13	13
延べ参加人数	35, 048	39, 455	42, 126	38, 415	39, 246	37, 670	32, 810

(3) 放課後児童クラブと放課後子ども教室との連携について

国においては、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的あるいは連携して実施していくことを推奨しています。一体的あるいは連携しての実施が可能となるのは、原則、開設場所間を子ども達のみで安全に移動できる場合（隣接または通りを挟んだ向かい）ですが、現状として、この条件を満たす小学校区は限られています。

(4) 学校との連携について

居場所事業の実施団体と学校との間で、事業を実施するうえでどのような連携が取られているかの現状を把握するために、令和元年度に「奥州市放課後子どもプラン見直しに係る調査（相互連携に関するアンケート）」（P 38～）を実施しました。調査によると、児童に関する情報や行事日程については 9 割以上の学校と居場所事業実施団体との間で情報を共有しているところですが、より緊密な連携を求める声が双方から寄せられています。

4 「奥州市放課後子どもプラン」の達成状況の検証

放課後の子どもの居場所の確保等、従来の居場所事業の充実はもちろんのこと、子どもを育てていくのは地域の大人の役割であるという視点に立ち、学校や家庭も含めた広い意味での「地域」が主体となった子育て環境の整備を目指すこととし、「奥州市放課後子どもプラン」において基本理念と基本目標を掲げ、平成20年から3年毎に見直ししながら、事業を展開してきました。

なお、プランの進行管理については、次のとおり、数値目標を定め、具体的な進捗状況を測りながら推進してきました。

【奥州市放課後子どもプラン（第一次プラン～第四次プラン）の基本理念・基本目標】

	第一次プラン（H20～H22）	第二次プラン（H23～H25） 第三次プラン（H26～H28） 第四次プラン（H29～R1（H31））
基本理念	「すべての子どもが放課後を安心・安全に過ごすことができる居場所づくり」	「地域の中で、子どもが安心・安全に過ごし、心豊かで健やかに育つことができる環境づくり」
基本目標	・小学校区ごとに放課後の居場所の確保に努める ・放課後子ども教室、放課後児童クラブの事業内容をより良くする	・子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所の確保 ・放課後対策事業の内容充実（第二次・三次プラン） ・学校、家庭、地域と連携した事業展開

(1) 「子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所の確保」について

全児童数のうち、放課後を子ども一人だけで過ごしている児童の割合は、目標値には至りませんでした。その構成をみると高学年ほど割合は高くなっており、成長の過程の一つとも捉えられます。

居場所事業がない小学校区は、放課後児童を子ども一人だけで過ごしている児童がいない1小学校区（木細工小学校区）で、第四次プランから変わりはありません。なお、放課後児童クラブの実施箇所数は目標値に達しておりますが、現状、定員数を超える需要があり、さらに増加傾向となっています。一方、放課後子ども教室の延べ参加児童数の減少は、児童数や開催回数の減などが影響しているものと考えられます。

指導員等が活動中に児童を見守る際に必要な知識や能力を得るための学習機会提供として、県主催の研修会については、積極的な参加を呼び掛けるほか、参加負担の軽減等支援を行うとともに、市においても独自の研修会を開催してスキルアップを図ってきております。しかし、指導員等の研修参加割合は平成27年度以降伸び悩んでおり、参加者が固定化してきています。

なお、各居場所の活動内容については、地域との交流活動など、地域や実施団体の特色を活かした事業が実施されています。

指標項目① 【全児童数のうち、放課後を子ども一人だけで過ごしている児童の割合】

H25 実績	H28 実績	H30 実績	R1 (H31) 実績	目標値	評価手法
7.0% (453 人/6,424 人)	9.4% (565 人/5,949 人)	8.6% (487 人/5,662 人)	9.7% (539 人/5,522 人)	9.0%	放課後の子どもの過ごし方調査(※)

※ 毎年、12月1日の放課後を児童がどう過ごしているかの調査であり、その年の調査日が、居場所事業が休みだった、たまたま家族がいなくて一人だったなど、単年度の評価では調査結果数値が真の現状値とは乖離する可能性があります。

指標項目② 【放課後児童クラブの実施箇所数】

H25 実績	H27 実績	H30 実績	R1 (H31)	目標値	評価手法
22 箇所	25 箇所	30 箇所	31 箇所	30 箇所	事業実績報告

指標項目③ 【放課後子ども教室の延べ参加児童数】

H25 実績	H27 実績	H30 実績	R1 (H31) 実績	目標値	評価手法
34,836 人	42,126 人	37,670 人	32,810 人	40,000 人	事業実績報告

指標項目④ 【指導員等の研修参加割合】

H25 実績	H27 実績	H30 実績	R1 (H31) 実績	目標値	評価手法
35% (92 人/266 人)	41.8% (125 人/299 人)	19.9% (72 人/361 人)	24.1% (88 人/361 人)	50%	各種研修会への指導員等の参加者数

(2) 「学校、家庭、地域と連携した事業展開」について

多くの居場所事業実施団体で、学校と情報交換をする機会が設けられており、確実に両者による協力体制が出来あがってきていると考えられます。また、居場所事業を利用する児童が地域の行事に参加する、作品を出展する等、地域との交流も図られています。

家庭教育に関する事業の延べ参加人数は、目標値からは乖離しておりますが、集計を行う行政主体の事業が分散、民間等で開催され、利用されていることによるものです。

指標項目① 【家庭教育に関する事業(講演会、親子ふれあい体験など)の延べ参加人数】

H25 実績	H27 実績	H30 実績	R1 (H31) 実績	目標値	評価手法
9,090 人	7,067 人	3,237 人	2,655 人	9,000 人	家庭教育支援事業参加者数、各地区等での親子体験講座

5 今後の課題

各地域で居場所事業の取り組みが図られているところではありますが、子どもが放課後をより安全かつ楽しく過ごすことができる環境を整えるためには、今後、以下の課題に取り組んでいくべきと考えます。

- (1) 現在、放課後を一人で過ごしている児童が多くいることから、子ども達の安全を第一に考え、一人でも多くの子どもが仲間とともに安心・安全に過ごせる居場所を充実させていくことが必要です。

- (2) 就労等により保護者が昼間家庭にいない児童の有無、年齢、家庭の状況、居場所事業への地域ニーズ等を把握し、各地域の実情に合わせた適切な放課後対策の内容について常に検討することが必要です。
- (3) 現在、各地域で特色ある居場所事業を実施しておりますが、より事業内容を充実させていくためにも、各事業間の連携や指導員等のスキルアップなどが必要です。
- (4) 開設場所として、学校の余裕教室等の活用を検討し、学校、教育委員会事務局並びに実施団体等との調整を図っていく必要があります。
- (5) 居場所事業の推進においては、地域の協力が不可欠であることから、交流活動などを通じて、より多くの地域住民が事業に携わることができる取り組みが必要です。また、各地域で居場所事業の支援員等の確保が課題となっていることから、地域の方に情報を提供するとともに、より多くの地域住民に協力いただくことが出来る環境づくりが必要です。
- (6) 居場所事業実施団体と学校とは、子どもが安心して日々の生活を送ることができるよう児童の普段の様子等について、また、教育方針等や安全管理についても、情報の共有を図ることが重要と考えます。その他、学校行事や下校時刻の変更、家庭の事情など、放課後の子どもに関する情報について、学校や家庭との連携を密にしていくことが必要です。
- (7) 各地域の居場所事業は、あくまで子どもが健やかに育まれるための支援の一つであることから、本来の子育ての基本は家庭にあるという意識啓発も同時に進めていくことが必要です。

IV 計画推進のための取り組み

1 子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所事業の充実に向けた取り組み

それぞれの地域のニーズや実態に応じた居場所事業の実施について検討を行い、子ども達が心豊かで健やかに育つことができるよう、次のような取り組みを進めます。

(1) 地域の実情に合わせた適切な居場所事業の内容検討

就労等により保護者が昼間家庭にいない児童の有無、年齢、家庭の状況、放課後対策事業への地域ニーズ等を把握し、各地域にとって適切な放課後対策の内容について検討します。

(2) 居場所事業の指導者・関係者等の人材確保、資質向上に関する取り組み

① 人材確保への取り組み

居場所事業の推進にあたり、指導員等の人手不足が深刻化している地域もあるた

め、より多くの地域の方々の協力が得られるよう、居場所の内容や子どもの様子を広く地域住民へ情報発信していきます。

② スキルアップに関する取り組み

居場所事業の内容充実に必要なスキルアップのための研修カリキュラムを検討し、市主催の研修会を開催するほか、県主催の研修会へも指導員等の参加を勧奨し、資質の向上を図ります。

また、特別な配慮を必要とする児童への対応が増えている中、その研修を求める声も多くあり、よりニーズに合った研修内容を検討、実施します。

(3) 小学校の余裕教室等の活用に関する取り組み

居場所として小学校の余裕教室等を活用することは、児童にとって移動距離及び時間が短く安全であること、社会資源の有効活用等のメリットがあります。

今後、少子化の進行に伴う児童数の減少により、余裕教室の増加が想定されることから、余裕教室の放課後児童クラブや放課後子ども教室への転用や一時利用について、地域の動向を踏まえ、適宜検討します。

(4) 放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携及び一体型による実施への取り組み

① 放課後児童クラブと放課後子ども教室との連携

合同研修会等の開催を継続していく中で、情報交流の推進及び両事業の果たすべき役割の意識づけや明確化を進めるとともに、双方の長所や短所を相互に理解を深め、必要に応じて補完し合うことが可能な関係を築いていきます。

② 放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型による実施

一体型による放課後児童クラブと放課後子ども教室の共通プログラムを実施するためには、双方の関係者が共通認識を持ち、企画段階から連携することが必要です。

実施に向けての課題を洗い出し、事業の相互支援や共催が可能かどうか、必要に応じ検討を進めます。

また、放課後児童クラブと放課後子ども教室を新たに整備する場合は、地域の実情に応じ、両者の一体的な実施が可能か検討します。

2 学校、家庭、地域と連携した事業展開に向けた取り組み

居場所事業の実施団体と学校、家庭間で、日頃から子どもに関する様々な情報を共有し、必要に応じて相互に支援し合うことが出来るよう、次のような取り組みを進めます。

(1) 学校との連携

各居場所事業実施団体内でスタッフ間の情報共有を図るとともに、居場所事業実施団体と学校が情報を共有し、それぞれの役割を踏まえながら、支援の方向性や児童の

安全確保等についても、引き続き適宜に相談ができるような関係の構築に努めます。

(2) 家庭との連携

① 居場所事業実施団体と家庭との間においても、連絡ノートでのやりとりや迎えに来た時などに対面して言葉を交わすことを心掛けること等により、児童の状況を互いに把握し、継続的に見守り・支援と子育てが同じ方向性で行うことができるような関係の構築に努めます。

② 子育ての基本は家庭であり、居場所事業は子育てを支援する方法であることを考慮して、家庭と学校及び居場所とが、その役割を再認識するとともに、家庭における子育てがより充実するよう、学校を通じた家庭教育講演会の開催などにより、保護者に対し、家庭教育の重要性を啓発していきます。

(3) 地域との連携

居場所事業の推進にあたり、地域の協力は不可欠であり、居場所事業への協力の拡大充実を図るためにも、交流活動を催すなど、多くの住民が居場所事業に携わることができるよう、より分かりやすく情報を発信します。

(4) 諸団体等との連携

子ども達がより健やかに育まれる環境を充実させるため、学生、スポーツ、文化・芸術団体等の様々な人々が参画できるよう、居場所事業の情報について、広く周知を図ります。

(5) 行政他部門との連携

居場所事業の推進に当たっては、児童福祉部門や学校教育部門等との情報共有や協力が不可欠であることから、各部門との連携の強化を図ります。

V 進行管理

第五次プランの進捗状況を測るため、第四次プランまでの指標を一部見直し、以下のとおり数値目標を定めて進行管理を行い、評価を奥州市放課後子どもプラン運営委員会にて行います。

1 子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所の充実に向けた取り組み

「放課後を子ども一人だけで過ごしている児童の割合」は、自立心が育ってくる高学年においては一人で過ごすことも成長の過程という一面もあるため、1～4年生を指標の対象とし、重点的に評価・検証を行います。

「放課後児童クラブの実施箇所数」及び「放課後子ども教室の延べ参加児童数」は、「子ども・子育て支援事業計画」と同様の内容で進行管理を行います。

「指導員等の研修参加割合」は、居場所事業の実施団体内で情報共有が図られていることを考慮して、「居場所事業実施箇所数における参加割合」を指標とします。

指標項目	H30	R1 (H31)	最終目標値 (令和6年度)	評価手法
小学1～4年生のうち放課後を子ども一人だけで過ごしている児童の割合	5.7% (123/3,699人)	5.5% (199/3,595人)	1.5% (52/3,342人)	放課後の子どもの過ごし方調査(各年、特定の1日を調査)
放課後児童クラブの数	44クラブ	45クラブ	48クラブ ※(1)	事業実績報告
放課後子ども教室の延べ参加児童数	37,670人	32,810人	34,672人 ※(2)	事業実績報告
居場所事業実施箇所における研修参加割合	78.0% (32/41箇所)	76.1% (32/42箇所)	80.0%	各種研修会への指導員等の参加箇所数

※ 「小学1～4年生のうち放課後を子ども一人だけで過ごしている児童の割合」の令和6年度「3,342人」は人口ビジョンに基づく人口推計によるもの。

※ 放課後事業実施箇所における研修参加割合について、放課後子ども教室のうち、水沢、水沢南、常盤の各教室は同団体が実施しており、スタッフ間の交流が行われていることから「3箇所」を「1箇所」として集計を行う。

- (1) 放課後児童クラブの年度ごとの量の見込み及び目標整備量（子ども・子育て支援事業計画より）

	単位	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
確保量	実人数	1,395	1,422	1,481	1,510	1,558
	クラブ数	44	45	47	47	48

- (2) 放課後子ども教室の2023年度までの実施計画（子ども・子育て支援事業計画より）

(単位：実人数)	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
確保量	36,332	35,516	35,535	34,885	34,672

- (3) 一体型の放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の令和6年度に達成されるべき目標事業量

隣接または通りを挟んだ向かいの施設で両事業が行われている小学校区から一体型の居場所事業を展開できるか検討します。令和6年度においては、現在、両事業が行われている、常盤小学校区、岩谷堂小学校区、南都田小学校区の3箇所での実施を目指します。

指標項目	R1 (H31)	最終目標値 (令和6年度)	評価手法
一体型の放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の事業量	2	3	事業実績報告

2 学校、家庭、地域と連携した事業展開に向けた取り組み

学校、家庭、地域の連携に関しては、相互の情報の共有や協力体制が構築しつつ、家庭教育の重要性を啓発することを目的に、学校を通じた（ＰＴＡ主催）家庭教育に関する講演会等の開催の有無を指標項目とします。

指標項目	R1 (H31)	最終目標値 (令和6年度)	評価手法
学校を通じた（ＰＴＡ主催） 家庭教育講演会の開催	74.0% (20/27校)	80.0%	市内小学校への実施調査

※ 第四次プランまでの評価指標「家庭教育に関する事業（講演会、親子ふれあい体験など）の延べ参加人数」は、幅広い事業の参加人数をすべて把握するのが困難となっていることから、指標項目を見直しております。

奥州市放課後子どもプラン

◇放課後対策事業概要◇

◇居場所事業について

事業名	放課後児童健全育成事業「放課後児童クラブ」	放課後子ども教室推進事業「放課後子ども教室」
担当省庁	厚生労働省	文部科学省
市担当課	健康こども部こども家庭課	協働まちづくり部生涯学習スポーツ課
趣 旨	労働等により保護者が昼間家庭にいない子ども（小学校に就学している子ども）を対象として、放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図る（児童福祉法第6条2第2項に規定）	すべての子どもを対象として、安心・安全な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ、文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取組を推進する
対象	昼間家庭に保護者がいない小学生児童が対象で、登録制	すべての小学生等（原則登録制ではない）
開設日数	年間開設日数は250日以上	開設日数、参加人数の制限なし
利用料	利用料は施設によって異なる	利用料は原則無料（保険料や教材などの実費負担有）

《各地域の居場所開設状況》

地域	小学校区	児童数 (R2.5.1現在)	放課後児童クラブ(31箇所・45クラブ)	放課後子ども教室(13教室)
水 沢	水 沢	585	・認定子ども園日高なつ星放課後児童クラブ(2クラブ) ・もみじ児童クラブ ・水沢放課後児童クラブ(2クラブ)	・水沢放課後子ども教室
	水沢南	654	・認定こども園こばとこども園放課後児童クラブ ・みなみ放課後児童クラブ(3クラブ)	・水沢南放課後子ども教室
	常盤	653	・認定子ども園常盤幼稚園放課後児童クラブ ・ひがしっこ児童クラブ ・ときわ放課後児童クラブ(3クラブ) ・第二東水沢保育園学童風の子クラブ	・常盤放課後子ども教室
	佐倉河	262	・佐倉河放課後児童クラブ(2クラブ)	
	真城	228	・真城放課後児童クラブ(2クラブ)	
	姉体	222	・姉体放課後児童クラブ(2クラブ)	
	羽田	110	・羽田放課後児童クラブ	
	黒石	34	・黒石放課後児童クラブ	
江 刺	岩谷堂	593	・岩谷堂放課後児童クラブ(4クラブ)	・岩谷堂地区放課後子ども教室
	江刺愛宕	256	・江刺愛宕放課後児童クラブ(2クラブ)	
	田原	41	・田原学童クラブ	
	大田代	19	・大田代学童クラブ	
	藤里	36	・ふじの子クラブ	
	伊手	47	・いでっ子くらぶ	
	人首	20		・人首放課後子ども教室
	木細工	9		
	玉里	40	・たまさと児童クラブ	
	梁川	36		・やながわ放課後子ども教室
	広瀬	46		・広瀬放課後子ども教室
	稲瀬	71		・稲瀬放課後子ども教室
前 沢	前 沢	655	・前沢放課後児童クラブ(2クラブ) ・古城放課後児童クラブ	・まえさわ放課後子ども教室 ・白山放課後子ども教室 ・生母地区放課後子ども教室 ・前沢いきいき子ども教室
胆 沢	胆沢第一	301	・小山キッズクラブ ・胆沢笹森放課後児童クラブ	
	南都田	232	・南都田キッズクラブ ・南都田放課後児童クラブ	・南都田放課後子ども教室
	若柳	105	・若柳キッズクラブ	
	胆沢愛宕	37	・愛宕キッズクラブ	
衣 川	衣 川	97	・衣川児童クラブ	
	衣 里	64	・衣里児童クラブ	

◇その他の取り組み◇

1 子どもが放課後を安心・安全に過ごせる居場所事業の充実に向けた取り組み

- (1) 地域の実情に合わせた適切な放課後対策の内容検討
- (2) 居場所事業の指導員・関係者等の人材確保、資質向上に関する取り組み
 - ① 人材確保への取り組み（広報、HP等を用いた情報発信）
 - ② スキルアップに関する取り組み（県研修会の参加勧奨、市研修会の開催）
- (3) 小学校の余裕教室等の活用に関する取り組み
- (4) 放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携及び一体型による実施に関する取り組み
 - ① 放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携
 - ② 放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型による実施

2 学校、家庭、地域と連携した事業展開に向けた取り組み

- (1) 学校との連携
 - 居場所事業実施団体と学校が情報を共有し、それぞれの役割を踏まえながら、支援の方向性や児童の安全確保等についても、引き続き適宜に相談ができるような関係を構築
- (2) 家庭との連携
 - ① 居場所事業実施団体と家庭で、児童の状況を互いに把握し、見守り・支援と子育てが同じ方向性で行うことができるような関係を構築
 - ② 保護者に対し、家庭教育の重要性を啓発（学校を通じた家庭教育講演会の開催など）
- (3) 地域との連携
 - 交流活動を催すなど、多くの地域住民が居場所事業に携わることができるよう情報を発信
- (4) 諸団体等との連携
 - 学生、スポーツ、文化・芸術団体等の様々な人材へ居場所事業の情報を周知
- (5) 行政他部門との連携
 - 児童福祉部門や学校教育部門等、各部門との連携の強化

資 料

◇アンケート調査結果◇

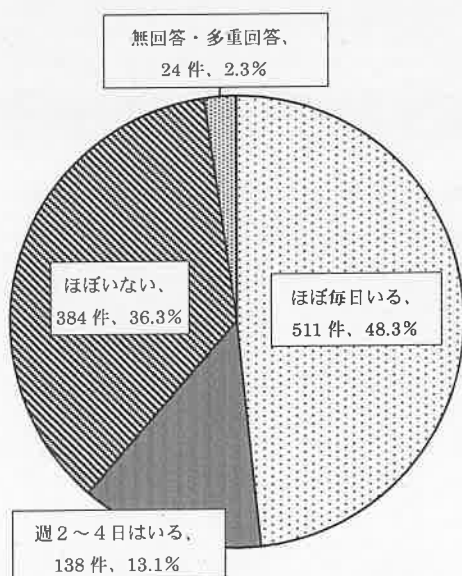
- 放課後等の子どもの過ごし方に関するアンケート
(市内各小学校児童の保護者対象)
- ほうかごのすごしかたアンケート
(放課後対策事業利用の小学校3・4年生児童対象)
- 放課後対策事業に関するアンケート
(放課後児童クラブ及び放課後子ども教室利用児童の保護者対象)
- 奥州市放課後子どもプラン見直しに係る調査(相互間連携に関するアンケート)
(市内小学校・放課後対策事業実施団体対象)

放課後等の子どもの過ごし方に関するアンケート

- ・ 対 象：市内小学校児童の保護者
対象学級を任意に抽出して実施
- ・ 実施期間：令和元年 10 月 11 日から 10 月 25 日まで
- ・ 調査数：1,138 件、回収数：1,057 件
- ・ 回収率：92.88%

※ 児童館、児童センターは平成 29 年度より放課後児童クラブへ一本化されている。

(1) 放課後、家庭に子どもを見守れる方はいますか。



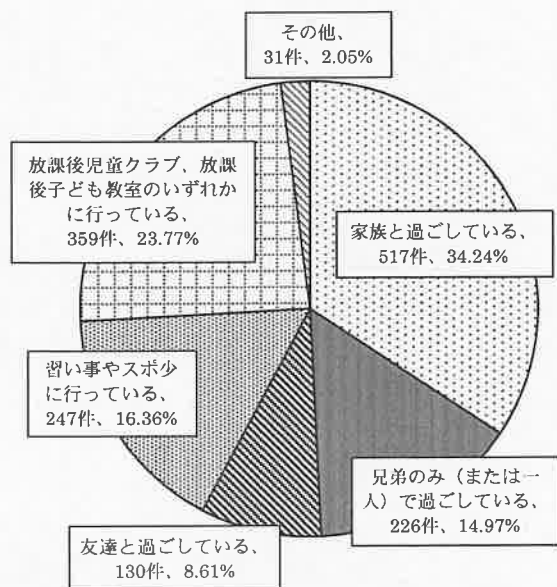
全体としては、「ほぼ毎日誰かしらいる」「週2～4日は誰かしらいる」が 61.4%と多く、「ほぼいない」と答えた保護者が 36.3%の回答であった。

地域別割合としては、「ほぼ毎日誰かしらいる」「週2～4日は誰かしらいる」と答えた保護者は、水沢地域が 57.5%で、江刺地域が 61.4%、前沢地域が 64.2%、胆沢地域が 66.8%、衣川地域が 69.4%であった。

【地域別割合】

	水沢地域	江刺地域	前沢地域	胆沢地域	衣川地域
回収数	445 件	244 件	159 件	154 件	55 件
ほぼ毎日誰かしらいる	206 件 (46.3%)	117 件 (47.9%)	79 件 (49.7%)	78 件 (50.6%)	31 件 (56.7%)
週2～4日は誰かしらいる	50 件 (11.2%)	33 件 (13.5%)	23 件 (14.5%)	25 件 (16.2%)	7 件 (12.7%)
ほぼいない	181 件 (40.7%)	87 件 (35.7%)	53 件 (33.3%)	48 件 (31.2%)	15 件 (27.3%)
無回答	8 件 (1.8%)	7 件 (2.9%)	4 件 (2.5%)	3 件 (2.0%)	2 件 (3.6%)

(2) 子どもは放課後を主にどのように過ごしているか。(2つまで選択)

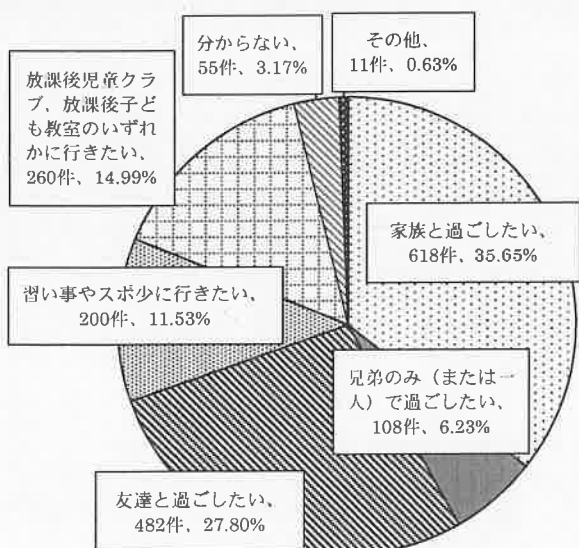


設問項目	H24	H27	R1(H31)
家族と過ごしている	35.21%	36.20%	34.24%
兄弟のみ(または1人)で過ごしている	11.70%	13.20%	14.97%
友達と過ごしている	19.16%	12.60%	8.61%
習い事やスポーツに行っている	17.34%	15.70%	16.36%
放課後児童クラブ(、児童館、児童センター)、放課後子ども教室のどれかに行っている	15.35%	20.70%	23.77%
その他	1.23%	1.70%	2.05%

「友達と過ごしている」が前回調査(H27)時より4%ほど減、逆に「放課後児童クラブ、放課後子ども教室のどれかに行っている」が3%ほど増となっている。

また、「その他」として、「祖父母宅」、「いとこ宅」、「放課後等デイサービス」、「小学校の課外クラブ」、「図書館」、「セミナーハウス(衣川)」、「地区センター」、「駒形こどもの杜 のびっこ」等の意見があった。

(3) 子どもは放課後を主にどのように過ごしたいと考えているか。(2つまで選択)

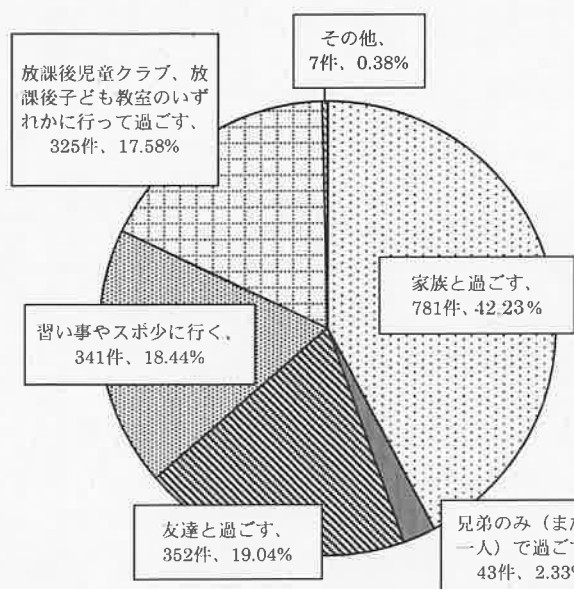


設問項目	H25	H28	R1(H31)
家族と過ごしたい	28.42%	31.40%	35.65%
兄弟のみ(または1人)で過ごしたい	4.04%	4.50%	6.23%
友達と過ごしたい	37.63%	33.90%	27.80%
習い事やスポーツに行きたい	12.40%	12.20%	11.53%
放課後児童クラブ(、児童館、児童センター)、放課後子ども教室のどれかに行きたい	13.68%	13.90%	14.99%
どう思っているか分からない	3.03%	3.60%	3.17%
その他	0.80%	0.60%	0.63%

「家族と過ごしたい」が前回調査時(H28)より4%ほど増、「友達と過ごしたい」が6%ほど減となっている。また、「放課後児童クラブ、放課後子ども教室のいずれかに行きたい」という回答も年々増加している。

また、「その他」として、「自分の特長を理解した対応をしていただける人と過ごしたい」、「その日の感覚」、「放課後等デイサービスへ行く」、「帰宅時間は夏場(スクールバス利用)だと5時を過ぎて、放課後の過ごし方という感覚が本人はないと思う」等の意見があった。

(4) 放課後の子どもの過ごし方について、あなたが望ましいと思うもの。(2つまで選択)

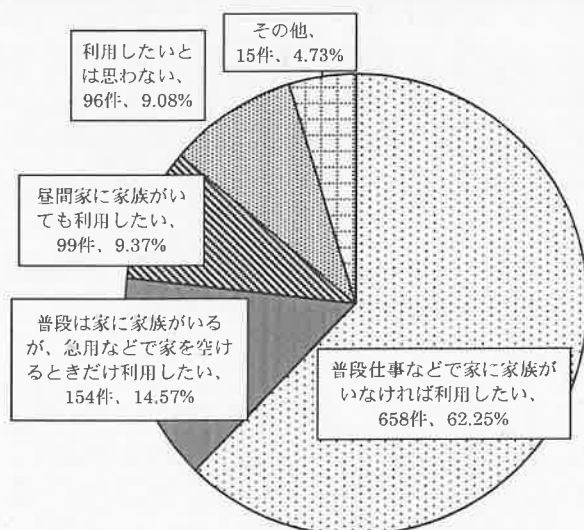


設問項目	H25	H28	R1(H31)
家族と過ごす	33.72%	38.60%	42.23%
一人(または兄弟のみ)で過ごす	2.03%	1.60%	2.33%
友達と過ごす	24.36%	23.60%	19.04%
習い事やスポーツに行く	17.65%	19.00%	18.44%
放課後児童クラブ(、児童館、児童センター)、放課後子ども教室のどれかに行き過ごす	21.41%	16.80%	17.58%
その他	0.81%	0.40%	0.38%

「家族と過ごす」が4%ほど増、「友達と過ごす」が5%ほど減となっている。

また、「その他」として、「放課後等デイサービスで過ごす」、「自分の興味をもった事に時間を使って欲しい」、「できれば児童クラブにと思うがちゃんと見てくれないから入れたくない」、「とくに望ましい事はない。時と場合による。」、「祖父母の家」、「同年齢の子供たちと遊ばせたいが、家が離れていて歩いていける距離ではなく、カギを持たせているので心配ではあるが、保育園でも夕方まで預けられ、本人が1人でも自宅で過ごしたいという気持ち強い」等の意見があった。

(5) 子どもが放課後の居場所を利用することについて(1つ選択)



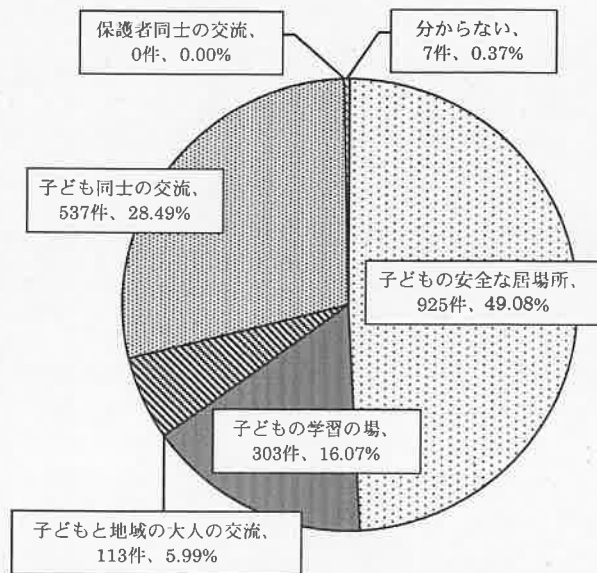
※H25の調査時は、放課後児童クラブ、児童館、児童センターを利用する考えのみで調査。

設問項目	H25	H28	R1(H31)
普段仕事で家に家族がいなければ利用したい	56.77%	55.06%	62.25%
急用などで家を空ける時だけ利用したい	21.24%	19.00%	14.57%
家に家族がいても利用したい	13.17%	11.70%	9.37%
利用したいとは思わない	4.27%	8.44%	9.08%
その他	4.55%	5.80%	4.73%

「普段仕事などで家に家族がいなければ利用したい」が7%ほど増となっている一方、「利用したいとは思わない」という回答が微増となっている。

また、「その他」として、「祖父母が家にいるが、自営をしていて、出入りが多いうえに高齢のため利用」、「利用したくても定員内や学年が上という事で入所できない」、「親としては、児童クラブ等に通わせたいと思っていたが、子供が嫌がり行かせられない」、「放課後等デイサービスを利用しているし、利用しない日も家族とすごしたりして十分なため今は必要ないと思う」「子供達の安全で友達、地域の人とすごしやすい場所」、「1人で家に居るのは心配ではあるが、自由に過ごしたいという本人の気持ちを大切にしたい」等の意見があった。

(6) 放課後の居場所に期待すること（2つまで選択）

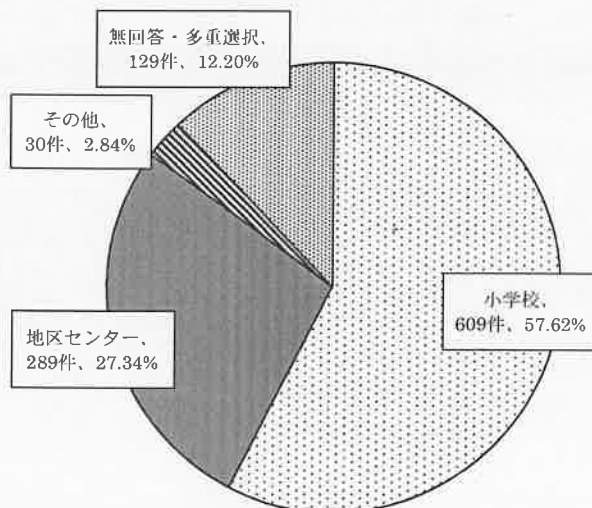


※H25の調査時は、放課後児童クラブ、児童館、児童センターと放課後子ども教室それぞれで調査。

設問項目		H25	H28	R1(H31)
安全な居場所	児童クラブ等	42.34%	45.53%	49.08%
	子ども教室	39.57%		
学習の場	児童クラブ等	17.89%	30.02%	16.07%
	子ども教室	20.80%		
地域との交流	児童クラブ等	4.94%	4.54%	5.99%
	子ども教室	6.90%		
子ども同士の交流	児童クラブ等	32.36%	28.05%	28.49%
	子ども教室	29.94%		
その他（分からない）	児童クラブ等	2.47%	1.04%	0.37%
	子ども教室	2.78%		

「安全な居場所」という期待が最も強く、次いで「子ども同士の交流」となっている。

(7) 「放課後児童クラブ、放課後子ども教室」を実施する場所について望ましいと思う場所は



※現在「公民館」はすべて「地区センター」へ移行している。今回のアンケートでは「地域の空き施設」の具体的な回答を得るため、選択肢を「小学校」、「地区センター」、「その他」のみとした。

設問項目	H25	H28	R1(H31)
小学校	62.71%	57.52%	57.62%
(公民館・)地区センター	25.70%	33.25%	27.34%
地域の空き施設	4.27%	1.93%	—
その他	7.32%	7.30%	2.84%
無回答・多重選択	—	—	12.20%

「小学校」が圧倒的となっており、次いで「地区センター」が望ましい場所となっている。なお、多重選択のうち、8件は「小学校」と「地区センター」、1件は「地区センター」と「その他（長期休みの際、早い時間から開所できる場所）」であった。また、「その他」として、「学校の近くに独立した建物を建設したものが望ましい」、「各保育施設を併用」、「小学校と地区センターではない別の場所（専用）がいいと思います」、「安全できれいな所ならどこでも良いと思う」、「放課後児童クラブがある場所」、「スクールバス昇降場所付近」、「老人ホームなど世代が異なる人と交流が図れる場所がよい」、「安全できれいな所ならどこでも良いと思う」、「学校から近くて、今より広ければ良いです」、「自宅の近く」等の意見があった。

○その他、自由記述意見等（抜粋）

- ・ 共働きや核家族が多くなっていると思うので、児童クラブの定員数を増やしてほしい（低学年までは必ず入所出来る等）
- ・ 低学年の時は、児童クラブがあって本当に助かりました。高学年になると自分の時間が欲しいように家で過ごすことが多いようです。成長にあわせて利用できる場所があり、ありがたいと思います。
- ・ 集団生活とは、楽しい時もあれば辛い時もあり、子供の社会も大変な様です。デリケートな子は、学校の人間関係だけでも疲れます。うちの子は学校から帰ったら静かにゆっくり休みたい、心を休めたいタイプです。子供の居場所作りについて、世の中頑張っていますが、相性の悪い人という、又は、心から安心出来ない所にいると、心身共に不安定になります。難しい事業ですね。乱暴な子も多いです。心から安定する場所作りができると良いですね。
- ・ 現在3年生ですが、放課後児童クラブに来年もお願いできるのかが不安です。長期休みなどまだ一人で家に置いておくのは、難しいと感じています。
- ・ 放課後に子どもたちが、児童クラブやスポ少で友だちと過ごす時間は、子ども自身が自分のコミュニティをつくる大切な時間だと思います。特に異学年との交流は、子どもたちにとって、とても重要だと思います。私たちも子どものころ。6年生に色んなことを教わったし、6年生になれば、低学年の子どもたちを、守ってあげようと考えました。
- ・ 地区センターまで30分も歩かせるのならば学校の教室を1部開放する 又は 付近に児童クラブを設けてほしい
- ・ 放課後児童クラブを利用していますが、家では体験できない事を体験させて頂いているので、とても満足しています。学校から少し遠いので、少し不安はありますが、デメリットばかりではなく、地域の方とお会いしたり、交通ルールをしっかりと守ったりと、プラスの部分も多いと感じています。
- ・ 祝日や、日曜日、放課後児童クラブにあずけられたら、親は助かります。土、日、祝日、仕事の親もいると思います。土、日、祝日を、家に1人子供をおいて、仕事に行くこともあります。とても不安なので、是非、土、日、祝日も、児童クラブ利用を、お願いします。
- ・ 現在、利用しているのでとても助かっています。色々、子供たちが楽しめるよう、工夫して頂いて、ありがたいです。地域の方々との交流もあり、よい体験になっています。低学年の下校の時刻には仕事で家にいないので、このような居場所が必要だと思います。
- ・ いろいろな事故・事件が増えて、子供がぎせいになっているので安全な居場所として、常に設置して欲しい。
- ・ 地域的に友だちの家と家と距離があるので、子ども教室は子供同士が遊ぶ場としても助かっています。
- ・ 放課後児童クラブに行くことで、宿題もしっかり取り組めるし、家で過ごすより、規則正しい生活ができていると思う。
- ・ 地域の大人との交流や、子供の同士の交流の場、誰かが見守ってくれる環境として、子ども教室（児童クラブ）があるのは、大変ありがたいことだと思う。昼間家に居る者が高齢者の場合もあり、見守りをお願いすることが難しい場合もあると思うので、このような場所があると、安心して働ける。
- ・ 長期休みのみや急用の時に預けられる環境を作って欲しい
- ・ 放課後こども教室は、他学年の子どもと活動できる貴重な機会だと思います。それに、体を思いっきり動かすことができるので子どもの体と心にとってもよいと思います。家に1人でいるとテレビ、ゲームをして過してしまうので、週に1～2回でも利用できる環境があると望ましいと感じます。
- ・ 利用する側の意識が、安く子供をあずかってくれるという感じがみられる為、少し改善した方がいいと思った。

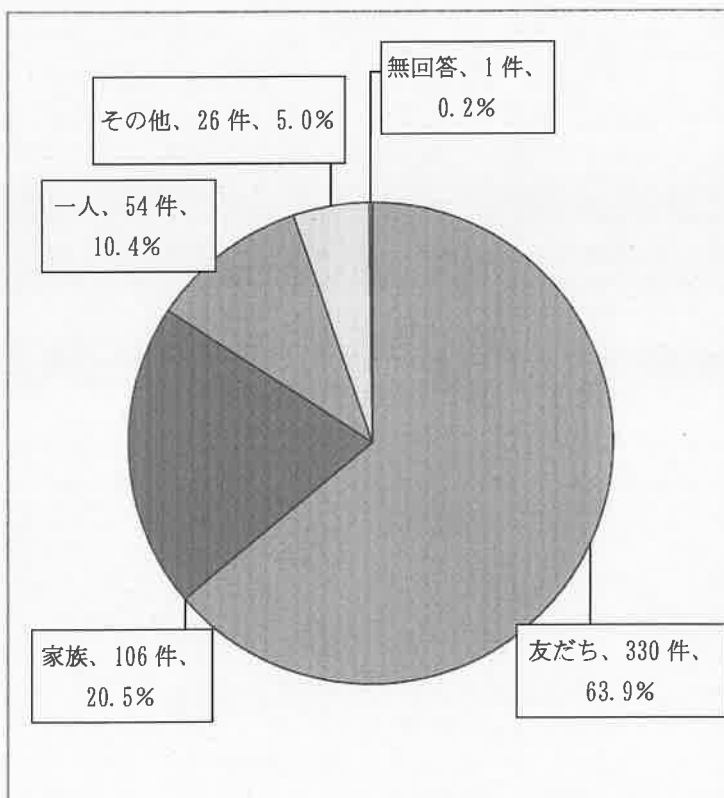
ほうかごのすごしかたアンケート

- ・対 象：放課後子ども教室、放課後児童クラブを利用している小学校3・4年生児童
- ・実施期間：令和元年10月21日～11月1日
- ・調査数：499件、回収数：499件
(小学校3年生児童354件、小学校4年生児童144件、学年無回答1件)
- ・回収率：100%

※放課後子ども教室は登録制ではないため、アンケート回収数＝対象者数とする。

■放課後の過ごし方について■

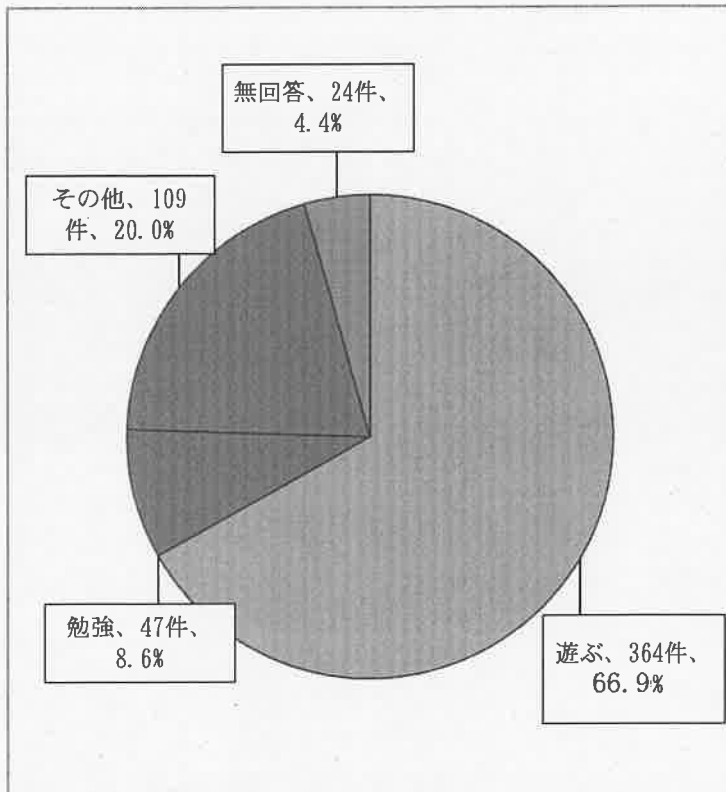
①誰と過ごしたいか（複数回答を含む）



「友だち」が約6割、次いで「家族」が2割を占める。一方で、「一人」で過ごしたいと思っている子どもも一定数おり、「静かに」、「自由に」過ごしたいと考えていることが分かった。

「その他」として、「児童クラブ・子ども教室で遊びたい」、「祖父母やペットと過ごしたい」等の意見があった。

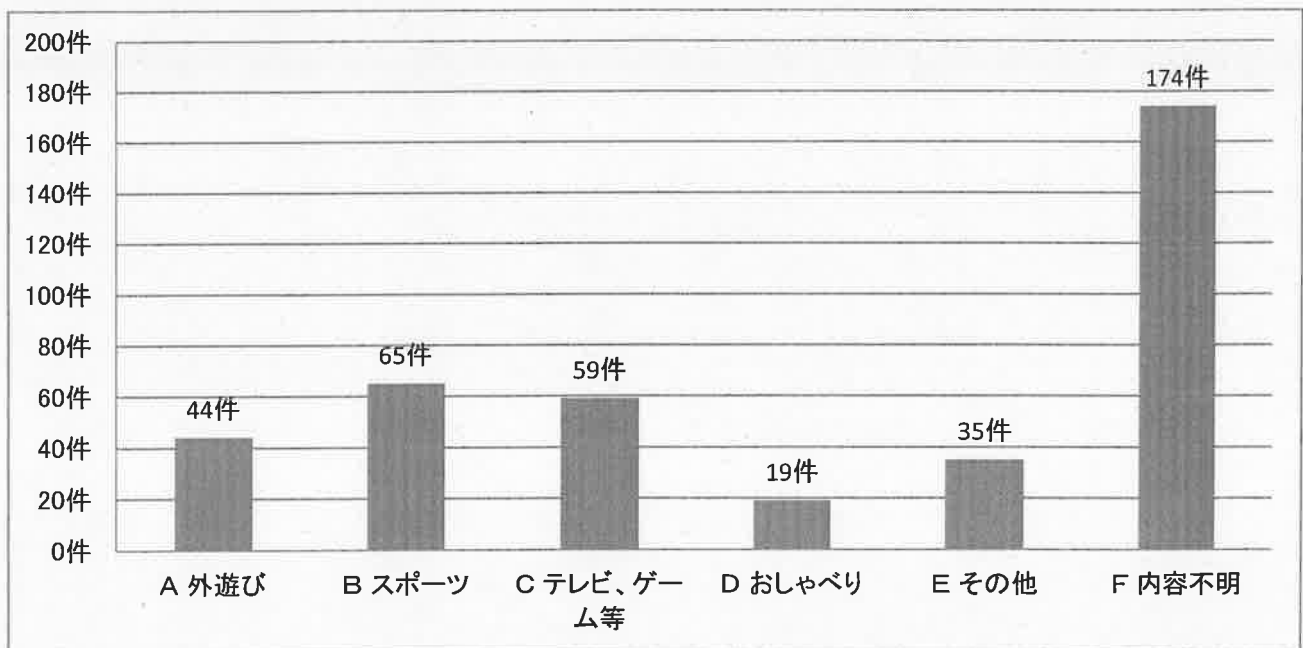
②何をして過ごしたいか（複数回答を含む）



「遊ぶ」が約7割を占め、次いで「勉強」が約1割となった。遊びの内容については、③で分析する。

「その他」として、「本やマンガを読みたい」、「ゆっくり過ごしたい」、「親の手伝いをする」等の意見があった。

③遊びの内容（複数回答を含む）

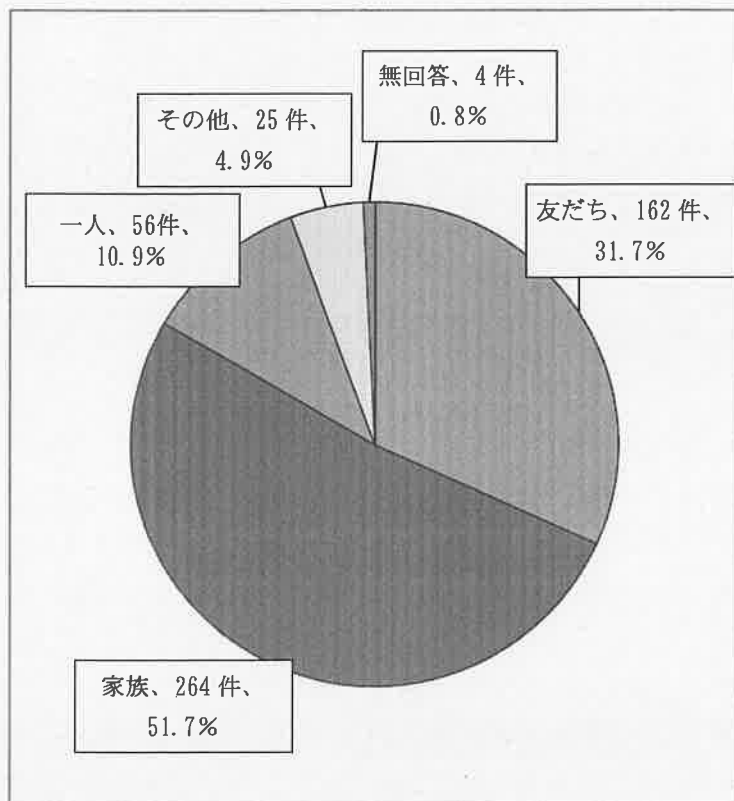


②で遊ぶと回答した人について、その内容を分類すると左記のとおりとなった。遊びの内容が不明であるものを除くと、野球やサッカー等の「スポーツ」という回答が最も多く、次いで「テレビ、ゲーム等」で遊ぶ、「外遊び」、「おしゃべり」の順となっている。

「その他」として、「児童クラブ・子ども教室で遊ぶ」、「おりがみ」、「トランプ遊び」等の回答があった。なお、子ども教室、児童クラブ等に関する記述は15件あり、友達と遊びたい、勉強したいなどの意見があった。

■ 休日の過ごし方について ■

① 誰と過ごしたいか（複数回答を含む）

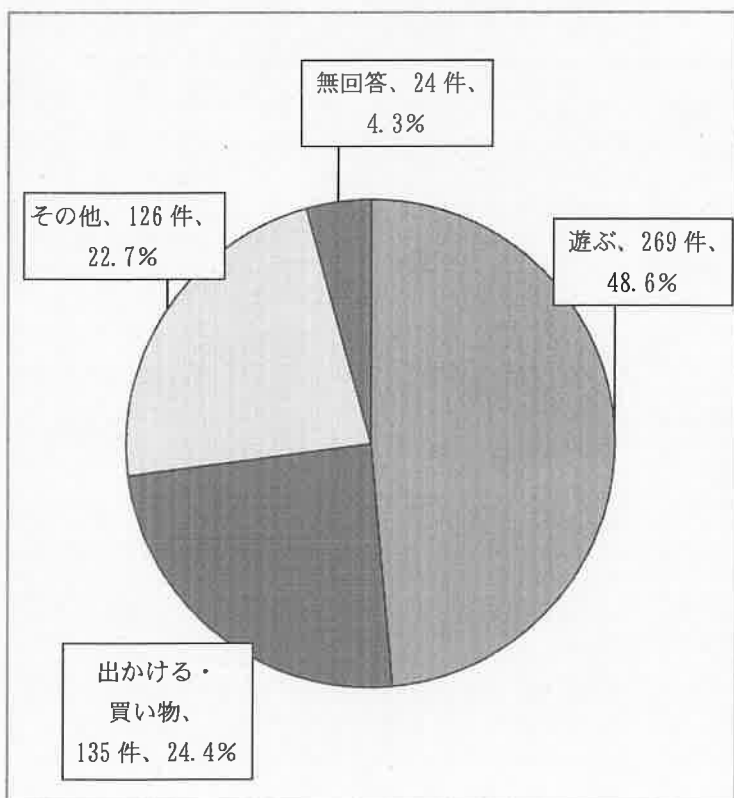


「友達」が約3割、「家族」が約5割を占める結果となった。「友達」を選択した児童の意見には、「つまらないから」、「友だちといると楽しいから」という内容の記述があった。

次いで「一人」の回答は約1割となっている。

「その他」として、「おじいちゃんやおばあちゃん」、「きぶんにもよる」等の回答があった。

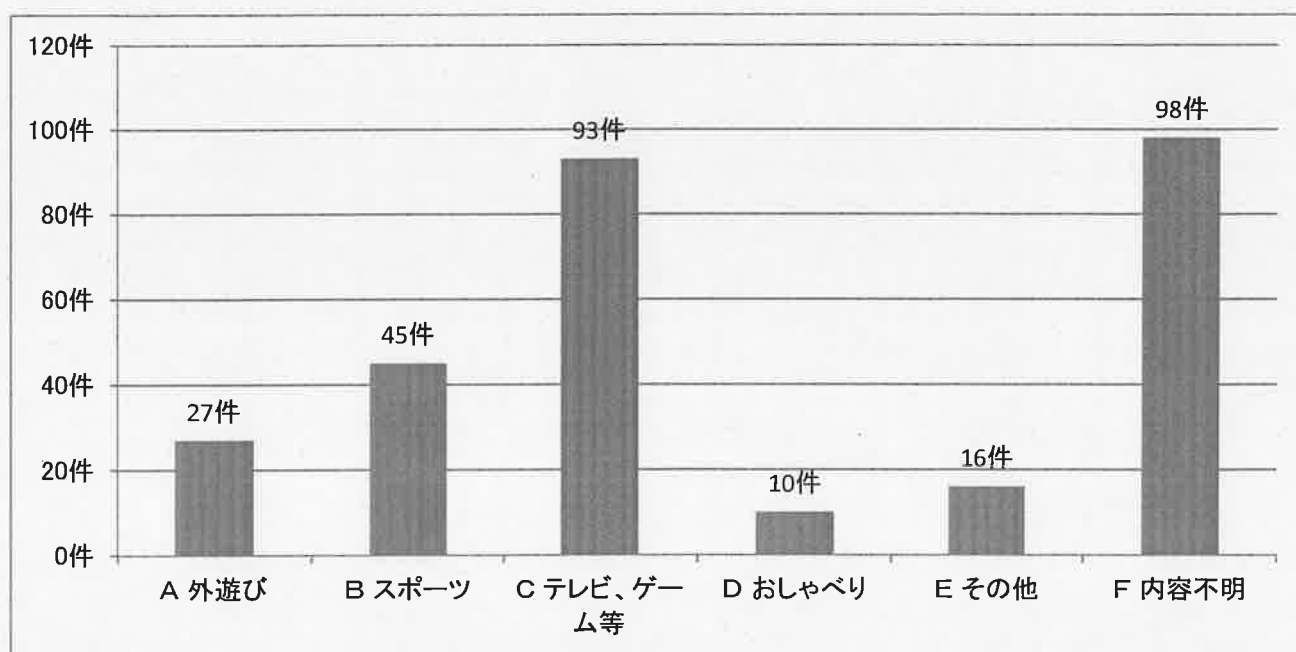
② 何をして過ごしたいか（複数回答を含む）



「遊ぶ」が約5割、次いで「出かける・買い物」が約2割を占める結果となっている。遊びの内容については、③で分析する。

「その他」の内容としては、「勉強」、「読書」、「パズル」、「習い事に行く」、「釣り」等の回答があった。

③遊びの内容（複数回答を含む）



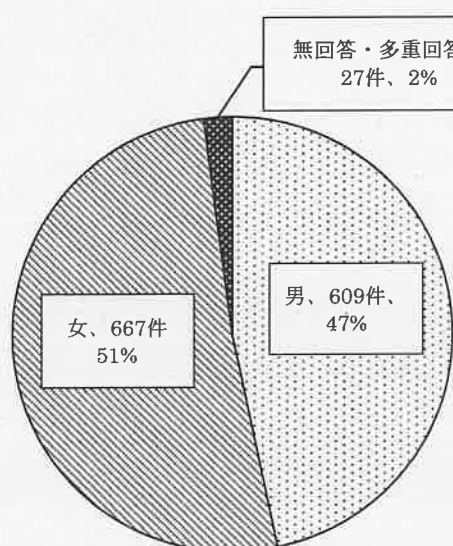
②で遊ぶと回答した人について、その内容を分類すると左記のとおりとなった。遊びの内容が不明であるものを除くと、「テレビ、ゲーム等」で遊ぶという回答が最も多く、次いで、野球やサッカー等の「スポーツ」、「外遊び」の順となっている。「スポーツ」には、スポ少での練習も含まれると考えられる。

「その他」として、「カードゲームをする」、「スライムづくり」、「お絵描き」等の回答があった。

放課後対策事業に関するアンケート

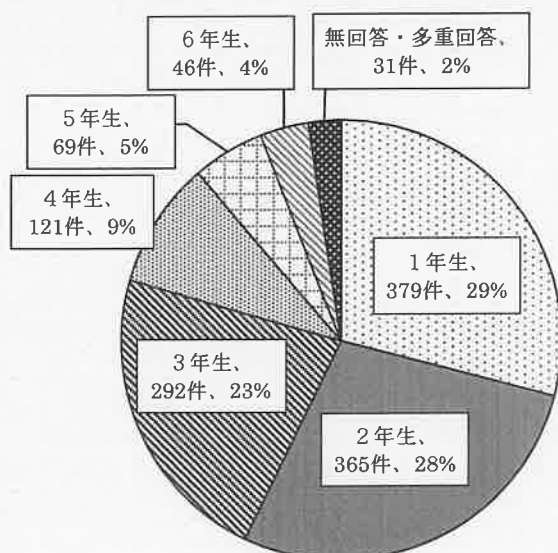
- ・ 対 象：放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を利用している児童の保護者
放課後児童クラブ 30 箇所及び放課後子ども教室全 13 箇所を実施。
(放課後児童クラブ全 31 箇所のうち 1 箇所は未回答)
 - ・ 実施期間：令和元年 10 月 21 日～11 月 1 日
 - ・ 調査数：1, 303 件、回収数：1, 303 件、回収率：100%
- ※放課後子ども教室は登録制ではないため、アンケート回収数＝対象者数とする。

設問 1 お子様の性別について、該当するものをお選びください。



性別での利用差はほとんど認められない。

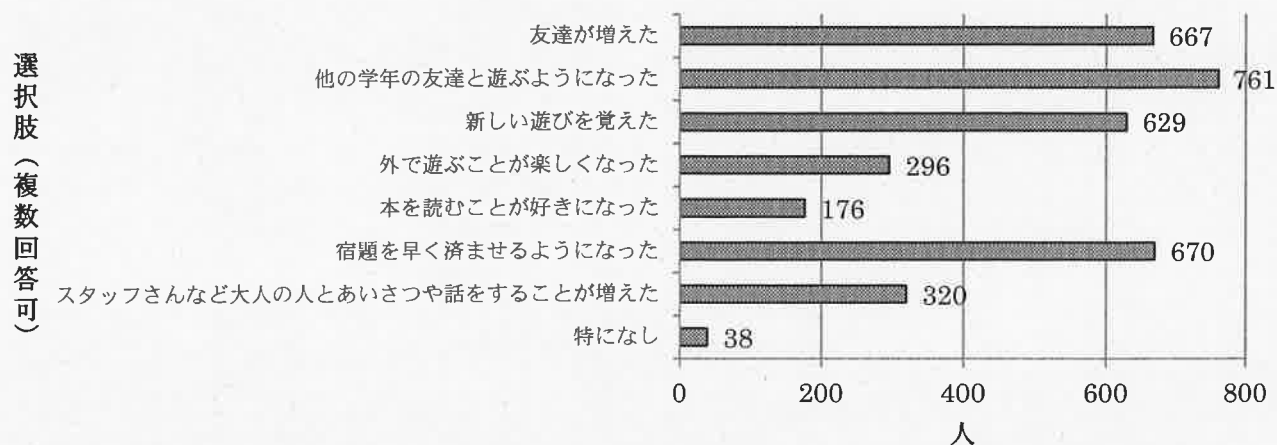
設問 2 お子様の学年について、該当するものをお選びください。



学年別では、1年生が比較的多く、2、3年生、概ね同じ割合で利用しているが、高学年になるにつれて、利用者は減っている。

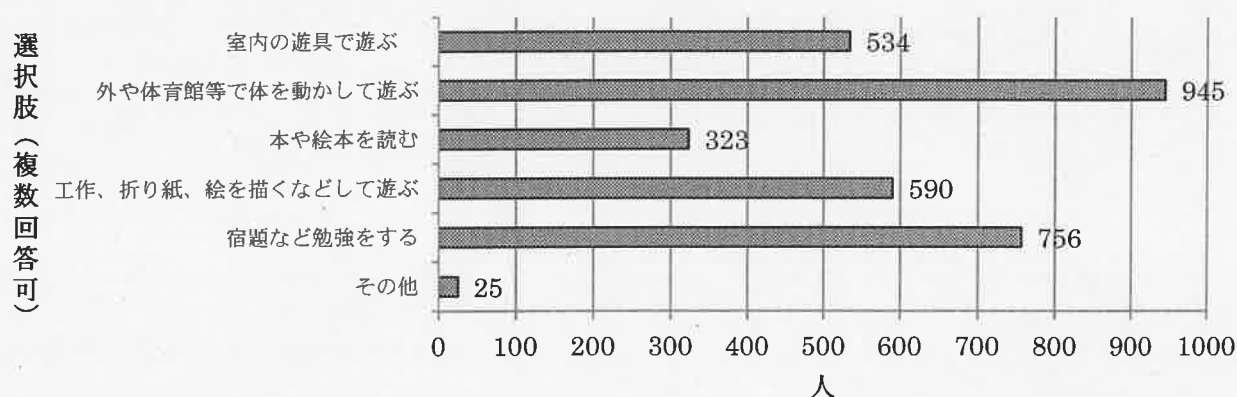
【お子様にお聞きいただき、以下の設問にご回答ください。】

設問3 放課後児童クラブまたは放課後子ども教室に参加して良かったと思うことは何ですか？当てはまるものすべてをお選びください。（選択肢回答、複数回答可）



子どもの反応として、異年齢・異世代交流が図られていることが分かる。また、宿題を早く済ませるようになるなど、生活面へも良い影響を与えていることが読み取れる。

設問4 放課後児童クラブまたは放課後子ども教室で何をする人が多いですか？当てはまるものすべてをお選びください。（選択肢回答、複数回答可）

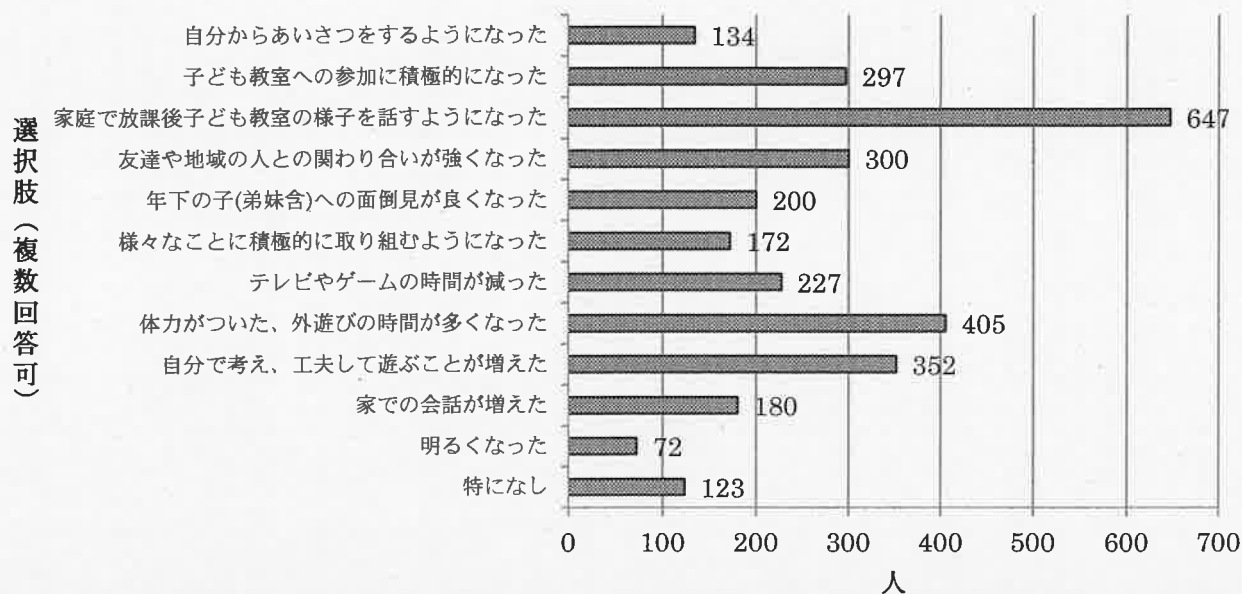


多様なカリキュラムで放課後を過ごしている様子が読み取れる。

その他（設問5）として、カードゲーム、テーブルゲーム、トランプ、レゴブロック、オルガン、パズル、おうちごっこ、虫取り等の意見があった。

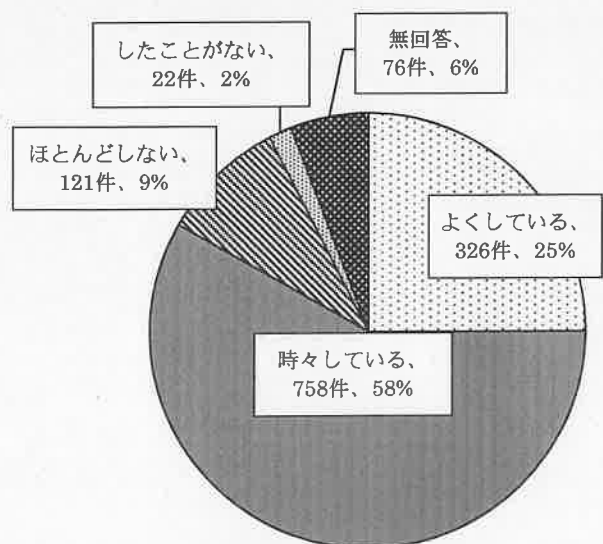
【以下については、保護者の皆様自身のお考えをお聞きます。】

設問6 放課後児童クラブまたは放課後子ども教室に参加し、お子様にどのような変化があったと思いますか？あてはまるものすべてに○をつけてください。（選択肢回答、複数回答可）



放課後児童クラブ及び放課後子ども教室が、家庭内や地域内での交流促進や、体力や心の成長にもつながっている様子が読み取れる

設問7 放課後児童クラブまたは放課後子ども教室の活動について、お子様と話をしたり、教室で習ったことを家庭で体験したりしたことがありますか？当てはまるものをお選びください。

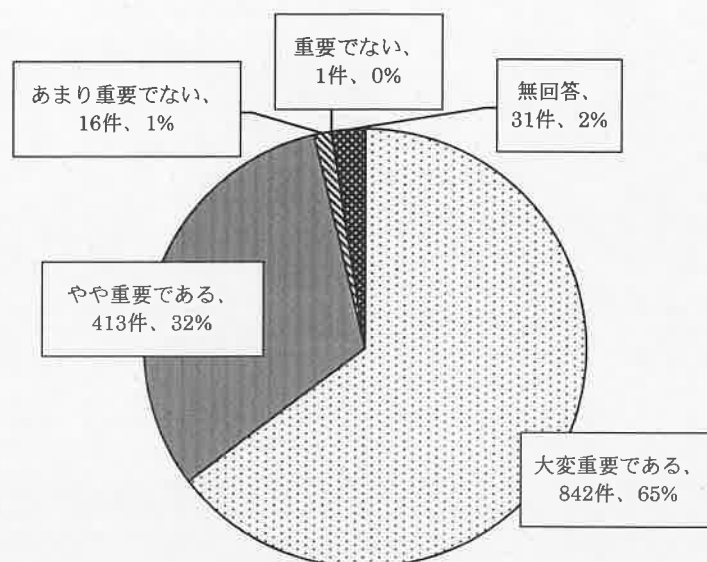


83%の家庭で子ども教室の話題を話したり、学んだことを活かしている様子がうかがえる。

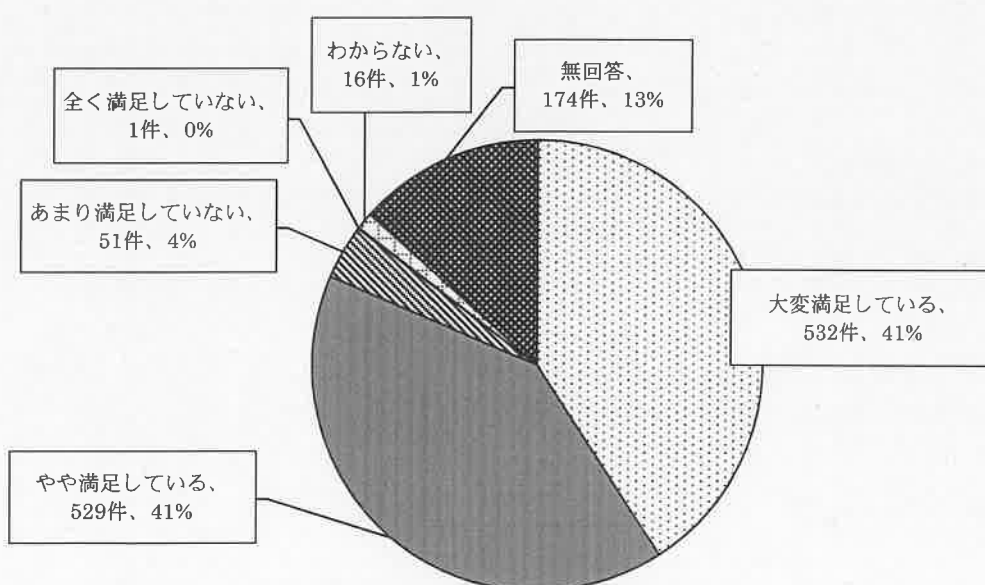
設問 8 お子様に参加されている放課後児童クラブまたは放課後子ども教室について、「どのくらい重要だと思うか（重要度）」、「どのくらい満足しているか（満足度）」、以下の各項目の該当するものをお選びください。

1 子ども同士の交流、友達づくり

重要度



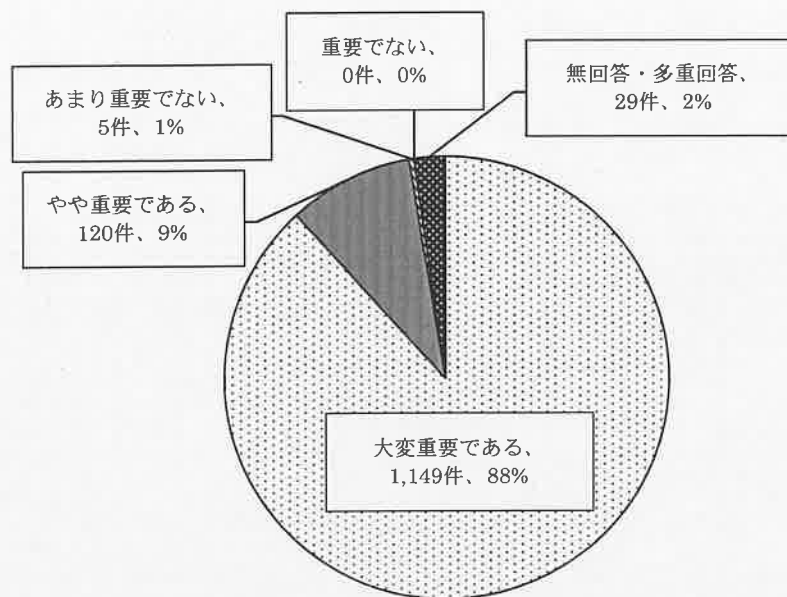
満足度



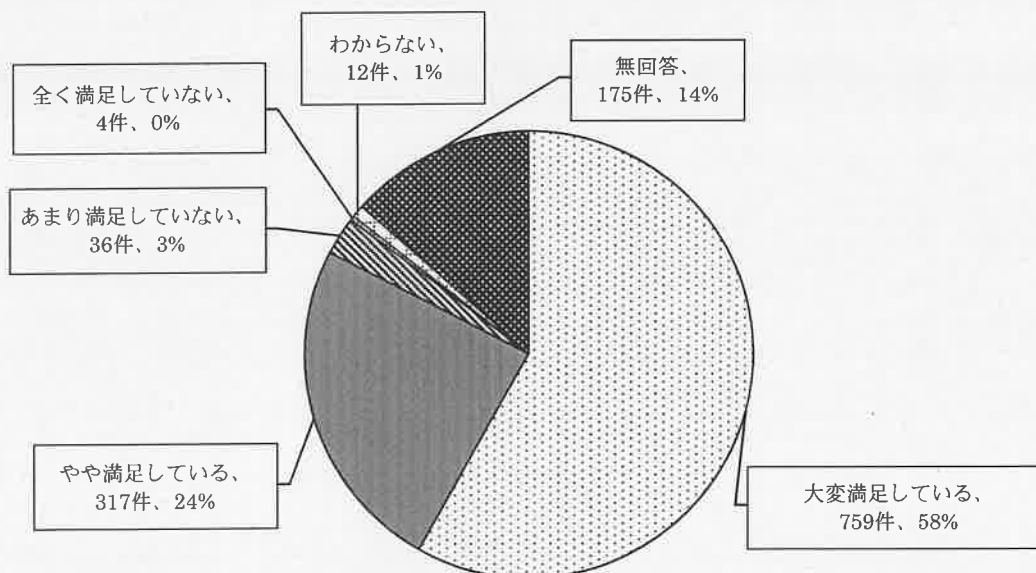
「子ども同士の交流、友達づくり」の場としての重要度については、97%が重要と考えており、満足度については82%と、肯定的回答率が高い。

2 安全な居場所

重要度



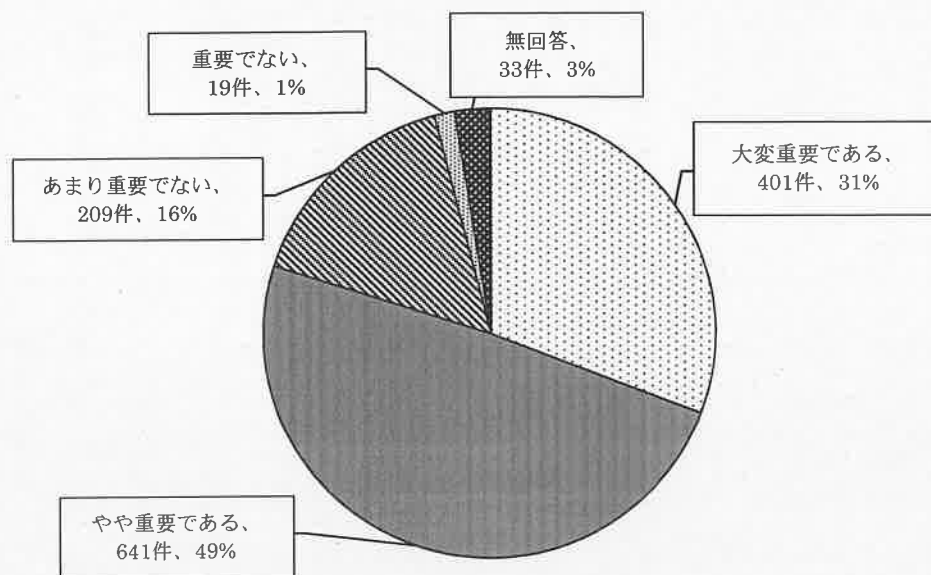
満足度



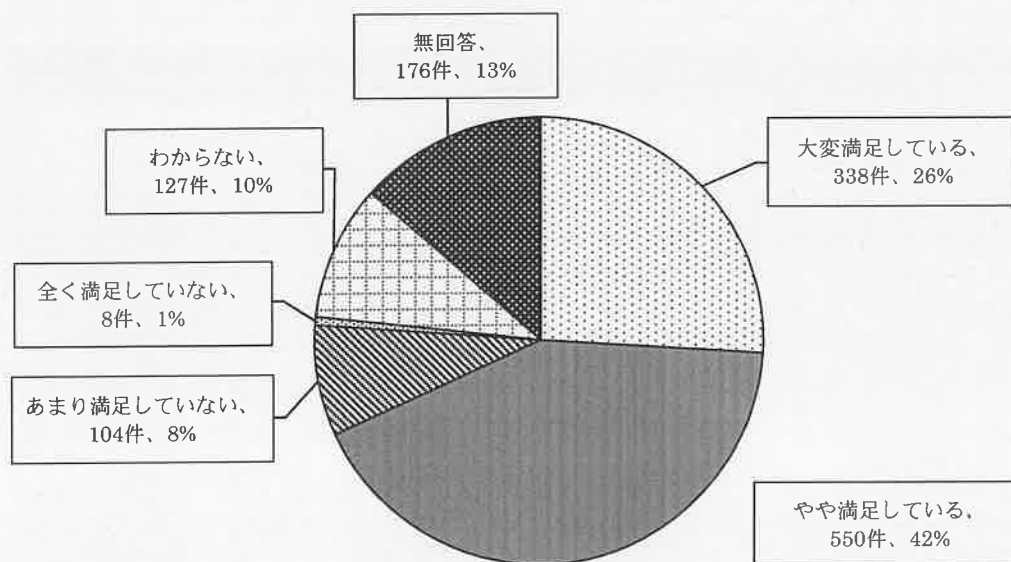
「安全な居場所」としての重要度については、97%が重要と考えており、満足度については82%と、肯定的回答率が高い。

3 地域文化に触れる場

重要度



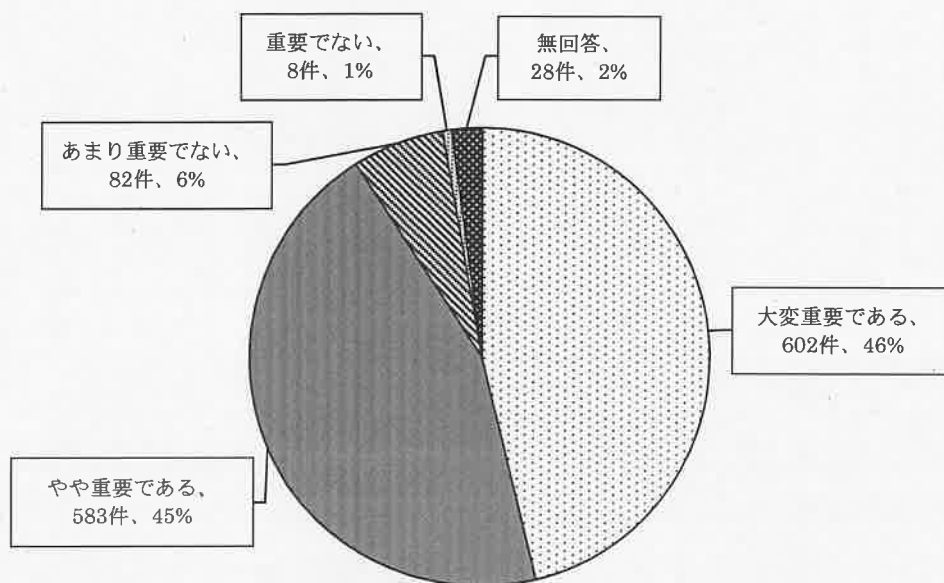
満足度



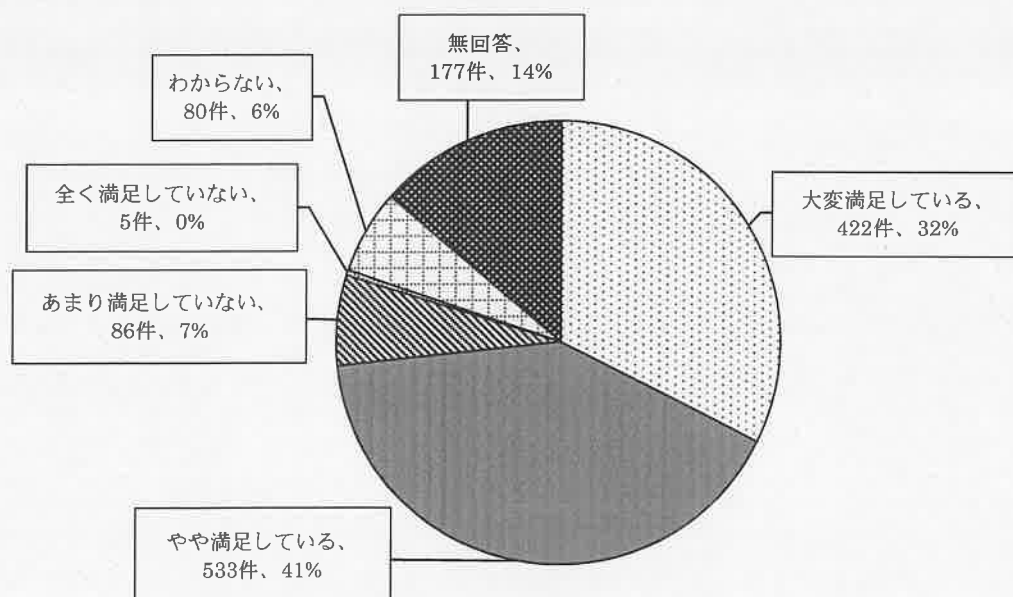
「地域文化に触れる場」としての重要度については、80%が重要と考えており、満足度については68%と、肯定的回答率が高い。

4 異世代交流（地域の方、先輩、後輩など）

重要度



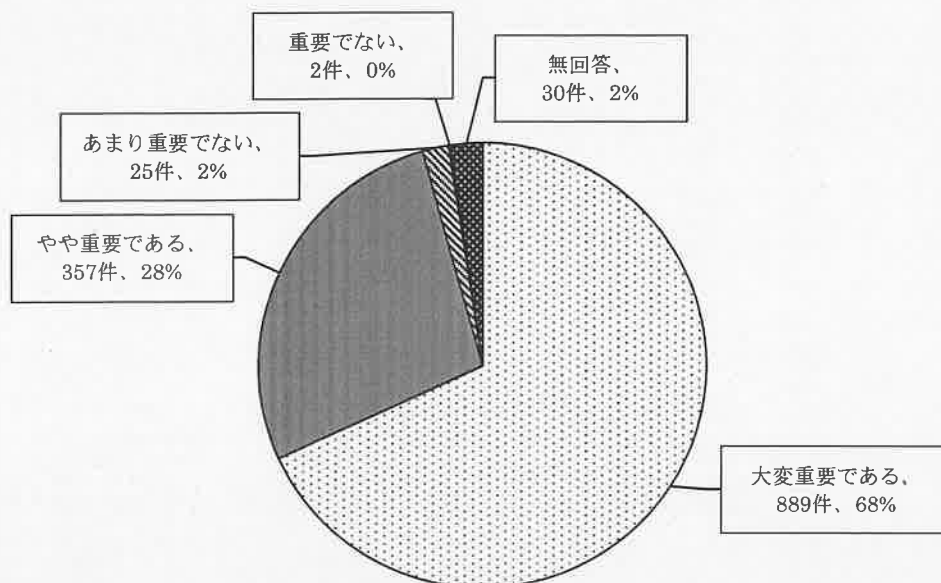
満足度



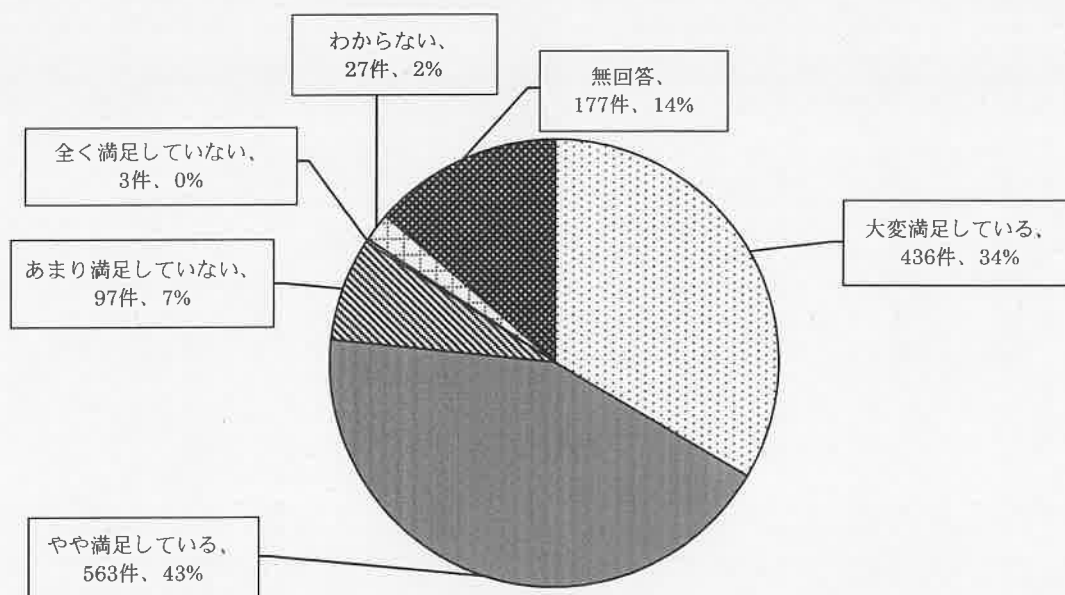
「異世代交流（地域の方、先輩、後輩など）」の場としての重要度については、91%が重要と考えており、満足度については73%と、肯定的回答率が高い。

5 生活習慣を覚える（あいさつなど）

重要度



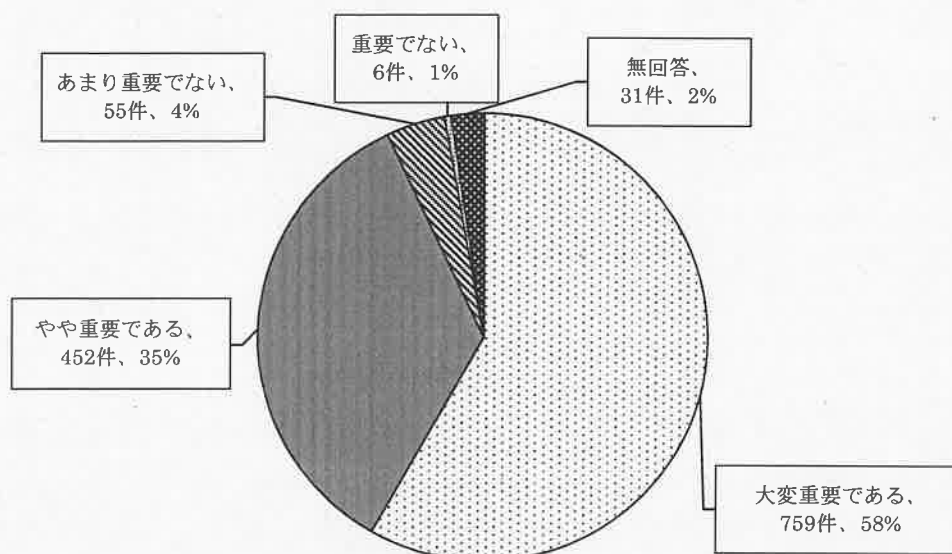
満足度



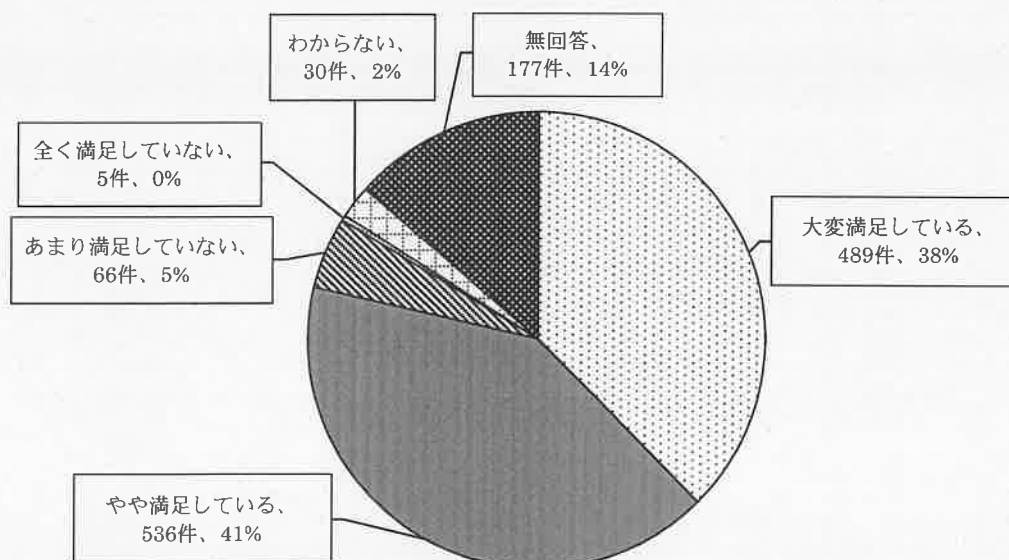
「生活習慣を覚える（あいさつなど）」の場としての重要度については、96%が重要と考えており、満足度については77%と、肯定的回答率が高い。

6 学びの場

重要度

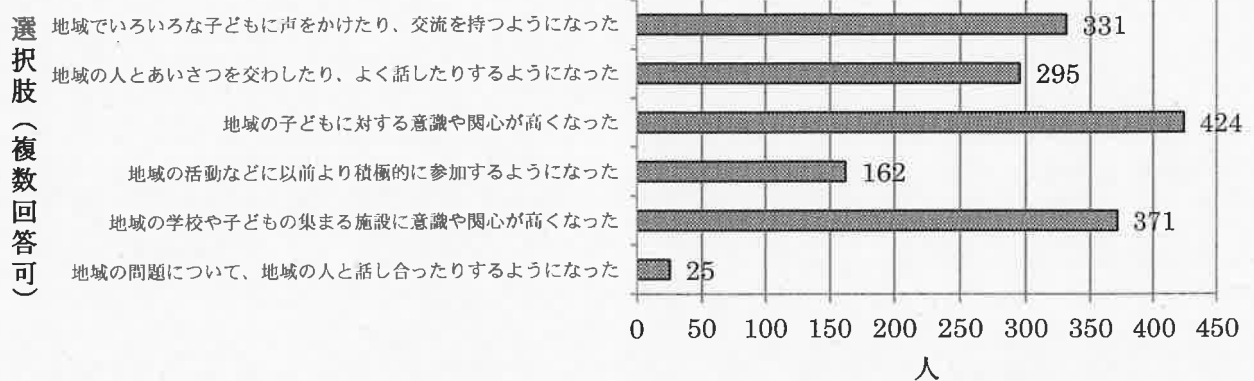


満足度



「学びの場」としての重要度については、93%が重要と考えており、満足度については79%と、肯定的回答率が高い。

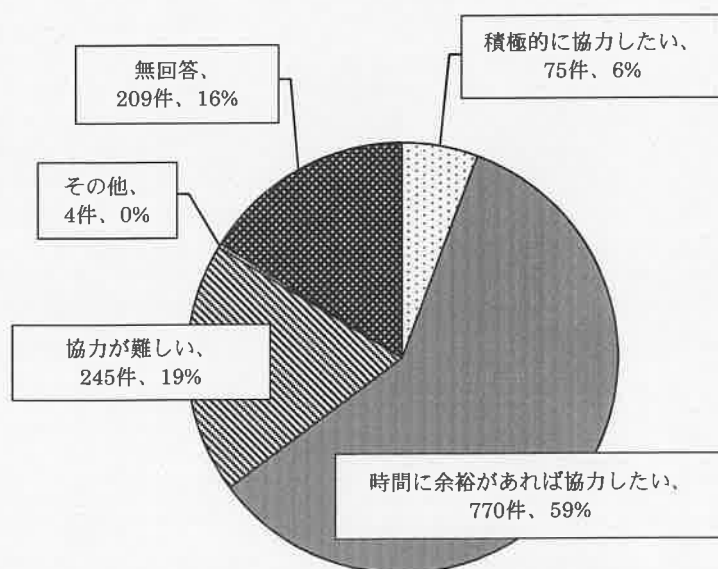
設問 9 お子様放課後児童クラブまたは放課後子ども教室に参加したことによって、保護者の方自身の気持ちや暮らし方に何か変化はありましたか。それぞれの項目について、該当するものをお選びください。（選択肢回答、複数回答可）



子どもを通して、地域の交流が深まっているが、地域の活動や問題へ触れることにはあまり積極的ではない。

【放課後子ども教室にご参加いただいている児童の保護者の皆様にお聞きます。】

設問 10 放課後子ども教室は、地域の方々によって運営されていますが、保護者の方ご自身の放課後子ども教室への協力について、近い考えのものを1つだけ選んでください（すでに協力している場合も回答してください）。



この設問には、放課後児童クラブにご参加いただいている児童の保護者の皆様にも多くご回答いただいた。

65%の保護者が協力に前向きである一方、子どもとの関わり方への不安や就労のため協力が難しいと考える保護者も多い。

一方、放課後子ども教室のみの集計結果を見ると、協力に前向きな保護者は61%であった。

○その他、自由記述意見等（抜粋）

- ・ 毎回 楽しみにしています。こちら（親）が知らない方とも、知り合いになり、声をかけていただいたり、楽しくすごせている様子が、見られます。
- ・ スタッフの若返り、もしくは、若い人もスタッフとして居てくれたら、体力的にも子供達との意見交換にも、大きく影響があると思いますので、ご検討してみてください。
- ・ 放課後児童クラブの定員が厳しいので、来年度の受け入れ拡大や、放課後子ども教室の3年生の引き続き受け入れなど、柔軟な対応があると、とても助かります。よろしくお願いいたします。いつもありがとうございます。
- ・ 良い事も多いが、学校とは違った環境で良くない事を覚える事もあり、自分で判断し考えていってほしい。もう少し子供達の言動や行動に注意してほしい。多少の厳しさは必要と考えます。
- ・ 子ども達が安全に過ごせる場所と時間を提供していただき、感謝しております。子どもが少ないため、近所に子どもがおらず、放課後等（歩いて）遊びに行くことが現実的でない環境にあって、とても助かっています。スタッフの方々の待遇がもっと良くなるといいなあと思います…。
- ・ 先生方の顔と名前がわかる写真、又は名札などあれば子供の会話もスムーズで助かります。総会、送り迎えの時だけがほとんどなので、中々覚えられていません。
- ・ 違うクラスの子や上級生の子と交流できたり、先生方とも遊んだりして楽しく過ごしているようです。宿題も済ませてくるので、正直助かります。ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。
- ・ 持続的な放課後対策事業の継続をお願いしたいです。（急に運営が立ちゆかなくなった、等がないように）
- ・ 子供教室を見守る先生方が高齢化している。本当は、もう少し若い世代の方が居てくれると、もっと安心だが…。その世代だと働き盛になってしまう。ただ、高齢の方々でも、活躍の場があるのは良いことだと思う。
- ・ 日頃から大変お世話になっています。いつも宿題を見て頂いたり、安全にあそべるよう配慮して頂き感謝しています。何より、地域の方々に見守っている、という安心感があります。このような場所は必要だと思います。
- ・ 体を動かす事が好きな子、本を読んだりする事が好きな子、色々いると思います。子供達が、楽しく過せる教室がこれからも続くといいなと思います。中々、親だけでは体験されてあげられない事を体験をさせて頂いて感謝してます。
- ・ 児童クラブの発表を保護者が見る機会を年に1～2回つくってほしい。
- ・ 共働きであり、祖父母も遠方のため、児童センターの存在にとっても感謝しています。けん玉や一輪車など家ではやらないことをやって楽しさを覚え新しい発見も多くあります。
- ・ 小学校3年生までの利用という規則ですが、小4～も継続して利用させて頂きたい。共働きで帰宅時間も遅いので（祖父母も他県）、小4～自宅にいるよりは、今の学童がとても良く、子どもに合っているのでそのまま継続したい。自宅近くには親せきやあずかってくれる家も全くないので（転勤族）、登録だけでもさせて頂きたい。安全面からも高学年利用も考慮して頂きたいと思っています。
- ・ 我が家にとっては大事な施設です。本人の希望も聞くべきですが、親としては4学年になっても通ってほしいと思っています。
- ・ いつも子どもを見守っていただきありがとうございます。児童クラブ、毎日楽しく通っています。様々な学年との交流や遊びを学んでくれるので親も嬉しく思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。
- ・ いつも、スタッフの方々が考えて、地域の人たちと交流する機会を設けてもらっています。なかなか家には体験することのない活動などをし、それを「楽しかった!」と話す子どもを見ると、あずけてよかったと思うことも多くあります。欲を言えば、公園をもう少し整備して外でも遊べるようにしてもらえるとさらにたのしいのかなあと思います。
- ・ 仕事をしている保護者としては、とても助かっています。地域で、身体いっぱい使って遊べるグラ

ンドや公園はなく、ボール遊びや大声を出して遊ぶ場所が少ないというより、ほとんどないので、児童クラブを利用していないお兄ちゃんも、グラウンド開放して、一緒に遊べたらいいなと思う時があります。

- ・ クラブ内でのトラブル、悪いことなどは、しっかり注意してほしい。ケガ、事故がないように見ていてほしい。
- ・ 児童クラブに関しては利用金額を上げて先生方を増員、定員数を増やして、高学年でも利用できるようにしてもらいたいですし、子ども教室だと、午前授業時、代休日、長期休み時（半日だけでも）開いていただいて、子供達の居場所を作ってもらいたいです。
- ・ 長期休み中のみの預りも考えてもらいたい。
- ・ 市で示している通り、6年生までお願いできるように至急してほしい。共働き、核家族世帯が増えているのに、そして不審者等もいるのに、どうして学童の拡大がおくれているのでしょうか。子育てしにくい奥州市です。
- ・ うち1人っ子で面倒を見てもらう側ばかりでしたが、児童クラブで年下の子達とふれ合い、自分がされてきたことを（面倒みる）さりげなくやっているのを見た時に成長を感じました。
- ・ 学校が振り替え休日であったり、長期休み（夏休み、冬休み）の時、朝は8時からとなっているが、親の仕事の開始時間（出勤時間）に間に合わず、いつも年次を取らないといけな。保育園や認定こども園のように児童クラブも朝7時30分～受け入れをしていただけると助かります。
- ・ 4年生以上になれば、児童クラブに多くのことは求めない。ただ、放課後や長期の休みの子供の居場所が必要だと思う。丸一日一人は中高学年でも本人も不安だし、親も仕事どころではない。
- ・ 共働きの家庭にとって、児童クラブは子供を安心して預ける事ができるととても重要な場所。現代は不審者やたくさんの痛ましい事件が多いので、そういったことを防げる場でもある。運営や、児童への指導に大変な苦勞も多い事と思いますが、私自身、この児童クラブのおかげで、働きながらの子育てというものを続ける事ができたと、心から感謝しております。まだまだ施設も人員も不足という現状で希望者全員が入所できないようなので、行政の方から増々の支援をしていただき、たくさんの児童が安心して生活できるよう願います。
- ・ 1年～4年生までの利用で良いのではないか。
- ・ 児童クラブには働く両親にとって大変感謝しています。いまだ、「今日学童嫌だ」と言う日もあります。友達と遊ぶのは楽しいみたいですが、指導員の先生が分かってくれず、学童をあまり好きになれてないようです。
- ・ 地域の知っている方々が先生をしてきているため、相談等しやすく、安心して児童クラブにお願いする事が出来ている。

奥州市放課後子どもプラン見直しに係る調査 (相互間連携に関するアンケート)

【小学校に対するアンケート結果】

- ・対 象：市内小学校
- ・実施期間：令和元年 10 月 11 日～10 月 25 日
- ・調査数：26 校
- ・回収数：26 校
- ・回収率：100.00%

問 1 貴小学校区で開設されている「放課後児童クラブ、放課後子ども教室」との連携が図られていますか？

→図られている 100% (26 校/26 校)

※市内全 27 校の内、木細工小学校区には「放課後児童クラブ、放課後子ども教室」の開設はない。ただし、木細工小からは問 2 についてのみ回答を得た。

問 2 貴小学校区で開設されている「放課後児童クラブ、放課後子ども教室」との連携の状況について伺います。

現在、連携を図っているものすべてを選択し、回数を記入してください。

項目	割合	回数
参加児童についての情報交換や話し合い	92.31% (24 校/26 校)	年 1 回～随時
安全管理について	38.46% (10 校/26 校)	年 1 回～随時
教育方針等についての情報共有	61.54% (16 校/26 校)	年 1 回～週 1 回
スケジュールの確認	84.62% (22 校/26 校)	年 1 回～週 1 回
その他	42.31% (11 校/26 校)	年 1 回～随時
その他 ・突発的な個別対応 ・校報、児童クラブだより、子ども園だよりの共有 ・下校時間の確認 ・利用児童の学校での様子の連絡 ・児童の安全等に係る情報共有 ・行事等での連携		

- ・気になることがあれば、随時連絡をとり合う。授業参観や、行事に来ていただく。
- ・児童について情報交換が必要な場合には随時連絡を取り合っている。
- ・年度初めに、児童クラブ職員と学校職員での情報交換会
校長が児童クラブに出向いての情報交換会
- ・教員による施設訪問
- ・必要に応じて生活の様子や児童個々の情報交換

問2 今後、どのようなかたちで小学校と「放課後児童クラブ、放課後子ども教室」が連携することが望ましいと考えますか？（抜粋）

- ・児童保護者等の情報を共有し、指導に生かすため、計画的な情報交換のほかに常時連携できる体制が望ましい。数園あるので相手の方針・ニーズについて、学校側が把握して連携することが望ましい。
- ・入学前後の児童や家庭の情報共有、放課後支援事業の概要理解等が必要であり、定期的な情報共有の連携が望ましいと考える。
- ・児童に対する情報の共有をし、個に応じた支援を共通理解のもとで行うこと。
- ・行事や下校時間の確認をすることで、学校と各クラブ等との引き継ぎがスムーズに行えらると思う
- ・定期的にだけでなく随時、日常的に起こった出来事や子どもの様子について情報交換することが望ましい。
- ・学校で学習が充分ではなかったところの補充ができるとよい。
- ・目的を明確にするためにも、年間の計画の中に位置づけていくことが望ましい。
- ・両者の独自性の尊重を前提として、ゆるやかに関わっていくことが望ましい。
- ・現在のように、設定された会議だけでなく、いつでも連絡をとり合ったり、学校行事に参加していただいたりすることで連携が深まると思う。
- ・学校で指導してほしいことや、「放課後児童クラブ、放課後子ども教室」で気をつけて見て欲しいこと等、お互いに連絡を取り合ったり、児童の様子を見に行ったりするなどして、交流を密にしていくことで、お互いに児童理解を深め、児童を育てていくことができればよいと思う。
- ・社会の急激な変化に対応した教育活動を行っていくためには、地域ぐるみで子供を育てていく必要があり、さらに積極的に学校と地域が教育の目標や課題を共有していくことが望ましい。
- ・同じ教育方針に基づき、内容、方法等について連携することが望ましい。
- ・今現在行っているように定期的に、児童についての情報交換、問題行動があった場合の対処の仕方等、共通理解を図り、同じ目線で連携を深めていきたいと考えている。
- ・本校では、年2回の連絡会議、小学校教員による放課後施設訪問を行っている。学校の様子・クラブ・教室での様子を情報交換・情報共有することで子ども達への望ましい指導に生かすことができている。今後も細やかな連携を図っていきたい。
- ・今まで以上に情報交換を密にし連携を図っていくことで児童の健全育成に相乗効果が期待できると考える。

- ・双方の場での児童の様子や実態等を共有・共通理解し、同一の方針で指導にあたっていくことが望ましいと考える。
- ・放課後の学習のあり方等も含め、学校と児童クラブ、家庭が考え方を共有することができるとような連携の機会が必要と考えます。
- ・災害時の居場所

●その他、自由記述意見等（抜粋）

- ・放課後、居場所のない子どもたちを預かっていただいていることに感謝しています。今後とも情報交換を行い、子どもたちの健全育成を図れるとよいと思います。
- ・教育振興会の中に、児童クラブを置いているため、事務局が本校にあるのだが、ちょっと違うのではないかと思う。地域民で運営等を行えるところはよいが、できないところについては学校ではなく、生涯学習等が支援すべきではないかと思う。
- ・保護者は放課後児童クラブが開設されていることを大変ありがたく感じている。児童も伸び伸びと生活している。反面羽目はずす場面も多々見られる。ある意味仕方のないことであるが気になる点を情報共有することが大切だと考えている。
- ・「放課後子ども教室」を小学校に隣接する地区センターが事務局（地域主導）となって開催し、小学校と密に情報交換を行いながら運営する方式は、地域・学校連携が一層推進され、児童の教育活動にとって有効であると感じる。
- ・年々児童クラブ・子ども教室を利用する児童が増加する傾向にある。（共働きの家庭が増えている）。学校側でも放課後施設を利用する子ども達の施設での過ごし方やスクールバスの利用、施設でのトラブル等について、指導員の方々と連絡を密にしながら対応していきたい。

【放課後児童クラブ、放課後子ども教室に対するアンケート結果】

- ・対 象：市内放課後児童クラブ、放課後子ども教室
- ・実施期間：令和元年 10 月 18 日～11 月 1 日
- ・調査数：44 箇所
- ・回収数：43 箇所
- ・回収率：97.73%

問 1 小学校との連携の状況について伺います。

現在、連携が図られているものすべてを選択し、回数を記入してください。

項目	割合	回数
取っていない	6.98% (3 箇所／43 箇所)	—
参加児童についての情報交換や話し合い	81.40% (35 箇所／43 箇所)	年 1 回～毎日
安全管理について	48.84% (21 箇所／43 箇所)	年 1 回～随時
教育方針等についての情報共有	41.86% (18 箇所／43 箇所)	年 1 回～月 1 回
スケジュールの確認	83.72% (36 箇所／43 箇所)	年 2 回～週 1 回
その他	39.53% (17 箇所／43 箇所)	年 2 回～毎日
その他 ・学校の先生がぬきうちで見学に来ています ・学年だより※この頃こない。情報交換や話し合いはないが年 1 回様子を観にきている。 ・子ども教室訪問 ・何か問題が起きた時 ・子供に問題行動等あった場合、その都度学校と連絡をとっている。 ・必要に応じて、担任の先生と児童の情報交換 ・トラブルが起きた時にその都度 ・問題のある子について、災害時、熊の出没等連絡、迎え時の親への連絡、下校時の安全確認 ・学校行事への参加 ・何かあれば適宜情報交換を行っている ・学校内に在るので随時連携体制にある。毎日開所始めに職員室にあいさつに行く。 ・重大なことや緊急なことはその都度電話することがある。 ・民生児童委員の方を通じて、問題がおきた時・トラブルがあった場合の情報共有		

問2 参加児童の家庭との情報共有の手段としてどのような取り組みをしていますか？

項目	割合
連絡ノートの作成	20.93% (9箇所/43箇所)
保護者との会話	86.05% (37箇所/43箇所)
「お知らせ」等の発行	90.70% (39箇所/43箇所)
定期的な懇談会	11.63% (5箇所/43箇所)
その他	18.60% (8箇所/43箇所)
その他 ・マチコミ ・個別面談 ・長期休業中の利用確認、忘れ物、送迎時刻、病気等の電話連絡 ・マチコミメール、掲示板による伝達 ・掲示板による情報共有 ・振興会便りに専用のコーナーを設けている ・年1回の保護者会	

問3 地域との交流・連携についてどのような取り組みを行っていますか？（抜粋）

- ・地区文化祭へ児童の作品の出展。隔年開催の歳末演芸会への出演（3、4年生）。地区敬老会への出演（1年生）：出席される招待者全員に全校児童が1人3～4枚の手紙を書いてくれます。
- ・振興会からは、教材費 etc. の補助。今年度はエアコンへの協力。
保護者会も、役員を中心に、協力体制がよい。エアコン設置のための推進協力。
広徳寺における諸行事への参加呼びかけに感謝（座禅、だんごまき（涅槃会）、etc.）
駐在所さんからも防犯に関するお話や、「鑑識体験」などを実施してもらっている。
- ・地区センター行事への参加（自主参加）
- ・地区収穫祭での作品出店・舞台出演
- ・小正月行事：水木かざり、水木だんご、地域探訪：経塚・胎内石・自然散策
- ・パークゴルフ協会の会員に年2回指導を受け、交流
- ・老人クラブの方々に参加していただいている。（昔遊びを教えてもらう）
- ・地域町内会の方を招いての「ふれあい交流会」、子どもの発表（ダンス・一輪車・竹馬・まりつき等）、ふれあいゲーム、町内会の方の余興（マジック等）
- ・地区の民生児童委員、老人クラブを招待し、年1度「なかよし交流会」を開催。
- ・地区センター…まつりへ児童の作品出展、一輪車演技発表。
交通安全協会…交通安全マスコット、チラシ作成して配布（呼びかけ運動）、

駐在所・奥州警察署…防犯教室又は交通安全教室

ゲートボール協会佐倉河支部…ゲートボール教室交流会

- ・区センター祭りへ児童の作品の出展、地区センター祭りでの演技出演、思い出カフェ（在宅介護支援センター）利用者との交流会、食改善推進員との交流会
- ・①地域の祭りへの出演及び作品の出展 ②老人クラブとの交流 ③寺子屋への協力 ④地域の福祉施設への訪問
- ・地区文化祭へ児童の作品の出展・ステージ発表
- ・老人クラブとの交流、収穫祭
- ・子ども食堂、老人クラブとの交流会
- ・地区センター祭り、年2回出展・七夕まつり・庭払いまつり（作品、図画等）
- ・老人クラブ訪問、交流会
- ・地区老人クラブとの将棋交流（月2回程度）
- ・近隣のお宅の畑をお借りして、野菜の育て方の指導を受けながら野菜を育てています。
- ・介護施設との交流会
- ・老人クラブとの交流会（グランドゴルフと昼食会）、地区文化祭への作品出品
- ・2年に1度の文化祭に作品を出展、更に演芸部門にも踊り等で参加。毎年行われる夏祭りにも踊等で参加（アイドルグループを結成している）
- ・地区の夏祭りに児童が踊りで参加。地区文化祭に児童の作品の出展、ステージ発表で踊りの出演
- ・郷土芸能・歳末助け合い演芸会へ作品展示。ユネスコ協会主催、平和の鐘を鳴らす運動へ参加。

問4 他団体と連携を図ることはありますか。また、それはどのような時ですか。（抜粋）

- ・小学校主催の連絡会議の際に、他施設との情報交換をしている。
- ・新年度の利用申請後、申請の状況や各クラブの問題点等について情報交換の会を行っている。
- ・小学校と各放課後対策事業所の意見・情報交流会（年2回）、古城児童クラブと毎週土曜日の合同保育。
- ・前沢児童クラブとの合同保育（お盆期間等）
- ・合同保育を通じて、コミュニケーションをしています。
- ・小学校運動会の振替休日に、南都田キッズクラブ（地区センター）に出向き、スポーツや、ゲームなど通じ、児童と職員の交流をはかった。
- ・次年度の利用者定員を調整しています。
- ・共有施設の使用時
- ・年1回の他（4地区）のクラブの指導員との交流、意見交換

問5 今後、小学校、家庭や地域とどのようなかたちで「放課後児童クラブ、放課後子ども教室」が連携することが望ましいと考えますか？（抜粋）

- ・今まで小学校、家庭、アドバイザーとの連携がない状態なので、これからそのような機会を持てたらと思います。
- ・おたのしみ会的な交流の場があると良いと思いますが、実際に実現するのは難しいと思われまます。特に休日の行事となると、なかなか参加しないご家庭が多いと感じます。
- ・保護者や地域の人たちが、子どもたちが、実際どのような暮らし方をしているかを、参観していただき、家庭での役割、地域の役割を更に深めていけるようにすること。
- ・小学校は行事が多く、連携する時間を見出すことが難しいが、できるだけ小学校の要望に沿って連携を続けたい。家庭とは、迎えに来た時に具体的にそのことを伝えていくのが良いと思う。
- ・子どもたちの情報交換
- ・他教室の子供たちと年1回は軽スポーツ等で交流会
- ・発達障害等問題児童や家庭の対応
指導については、情報交換のうえ協力して行っていきたい。
- ・定例的な情報交換。地区に開かれた児童クラブ等積極的な活動が望まれるが、現在の運営状況の実態ではなかなか難しい面がある。
- ・小学校の先生方には定期的に児童クラブの様子を見に来ていただきたいです。学校とはまた違う、子ども達の様子を見てもらいたい。そこで情報交換ができるとよい。先生も見に来ることで抑制にもなります。放課後子ども教室はないので、小学校にでもあれば（4年生以上で）児童クラブに入れない子が利用できるのではないかな。
- ・電話でも構わないので、その都度話をする機会をもうけることが望ましい。
- ・情報の提供等は十分ではなくとも出来ているように思います。児童クラブを開放して、地域や家庭でもっと自由に利用出来れば良いと思うのですが、施設はひとつしかなく、利用者のみで定員いっぱいなのでむずかしいです。
- ・生活指導において問題あり。学校でないからという思いから開放的になり、けじめのなさを生む。共通指導事項を確認し、文書やちらし、ポスター等で、目で声で、地域一帯で子どもの育成に取り組んだらどうか。
- ・児童クラブで行なっている事を積極的にアピールする事。互いに協力しあえる事を話し合い、協力していく関係を持つ事。
- ・随時、必要な情報が共有され、適切に処理や解決がなされる様に日頃から体制を整備しておく。
- ・各行事への参加により、児童クラブへの位置づけをしていく。
- ・施設を開放したり、小学校の先生方の児童クラブへの訪問（お互いに行き来できる関係）、地域のボランティアの方々との交流等
- ・小学校で行われる地区懇談会等に参加をして保護者の方たちや地域の方たちの生の意見を伺えたらと思います。
- ・発達障がい等の診断を受けているが、行動等が気になる児童の支援や家庭の支援、また、お互いの事業について理解を深める相互情報交換の場を設けてもらいたい。
- ・定期的に小学校や関係機関と連携をとりながら子どもとの関わりの参考にしたい。
- ・情報の共有や、互いの取り組み等の確認

- ・小学校とは毎月情報交換するべき
- ・率直な話し合いが必要。先生方は多忙と心得ているので、機会を増やしたり、ささいなことでもれんらくするのは気が引けるので、定期的に決まっているといいのかと思う。家庭との連携は、話しやすい保護者とそうでない保護者もいるし、指導員も得手、不得手があるのでむずかしい。話し合いを設けたとしても、来てほしい親は来ないというジレンマも。
- ・学校の先生、保護者共に忙しいので何度も集まりを設けるのはむずかしいと思います。現状維持で、問題がおこったらその都度話し合うこと。
- ・地域との関わり…行事への参加交流。
小学校との連携…施設の借用（空き教室の利用等）、運営への助言や情報交換。

●その他、自由記述意見等（抜粋）

- ・人首遊学スクール農園でミニトマト、さつまいも収穫しておやつに食べました。収穫体験は貴重な経験だと思います。
- ・スタッフ（教育活動推進員）の確保が年々難しくなってきます。現在 60 歳代のスタッフが 8 割です。どのようにお願いをすればスタッフが集まるか何か良い案はないものでしょうか？
- ・年に何回か巡回指導で、スポーツ、レクリエーション、工作等を指導して欲しい。
- ・1. 建物の老朽化の対策、エアコンの設置（1 個では不足）をお願いしたい。
2. 児童クラブに高学年を受け入れることは、現在のところ物理的に無理であるが、希望する保護者は多い。高学年の自立を助ける役目を担える、児童クラブとは別の施設を考えたかどうかと思う。
- ・学校支援ボランティアさんを児童クラブでも活用できると助かります。工作、手芸、行事等、人手が必要な時に補助していただけるといいです。地域の方との交流にもなるので、検討していただきたいです。
- ・環境整備、施設管理が大変です。元小学校跡地にあたる雑草や桜の木などはひどいです。草刈りは年 1 回で、全く足りてませんし、木は放置です。道路に枝は伸び出していますし、虫もついてます。
- ・当クラブの特殊性であるが、指定地の対応は子ども・家庭課、その後は管財課で。指定管理は社会福祉協議会と認識している。しかし、子供たちが遊ぶグラウンドや校地内の除草、除雪、倒木の撤去にかかる対応や経費の出处、建物のカビ対策や耐震性などの安全性など現場では対応しかねる問題について盤回的にされたり、展望が見えなかったり、現場対応にされたり、根本的な課題解決を示して欲しい。
- ・人手不足解消のため、保育者が兼務できるようにしてもらいたい。
- ・運営主体について地区振興会に担っていただきたい。

